

### 第3章 心豊かな人を育むまち

#### 第1節 子どもの教育

分野(評価項目) 1 幼児教育

総合計画  
参照ページ

P. 71

##### 1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町には2つの私立幼稚園があり、幼児教育が行われています。
- 幼児期(3歳～5歳)の教育は、人間形成の基礎を培う大切な時期であり、保育ニーズの多様化に応じた保育園との連携はもとより、小学校との連携、協力の強化をはかる必要があります。

##### 2 計画策定時の「めざす方向」

- 就園を希望する全ての幼児が適切な教育を受けられるよう、幼稚園整備の側面的協力に努めます。

##### 3 推進状況

###### (1)これまでの主な取り組みと成果

子育て支援センターを1箇所増設し、子育て家庭支援の充実を図ってきた。また、ママ講座の実施、育児サークル連絡協議会補助を通じて、子育てについての情報共有を図るとともに、不安や悩みの解決に貢献している。幼小接続をスムーズに行うため、幼稚園、保育園、小学校などと連携を図っている。経済面では、幼稚園就園奨励補助事業により、保護者の負担軽減を図っている。

###### (2)残されている課題等

現施策を推進し、関係機関との連携を図りながら、保護者のニーズに応じた幼児教育を、ソフト面、ハード面の両面から推進していく。

##### 4 中間年における推進状況

全施策の  
達成度の  
平均

4.71

分野全体の  
達成状況

A

- A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00)
- B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49)
- C 計画を下回っている(3.00～3.99)
- D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)

**5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策**

施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記号
<b>(1) 幼児を対象とした子育て支援</b>					
★ ① 幼児教育に関する相談や学習機会の充実に努めます。					
子ども福祉	5	5	5	相談件数は、一定程度落ち着き減少したものの、3箇所のセンターが連携し、施策の推進が図られている。核家族化やひとり親等が増えている社会情勢において、子育て支援センターの役割は重要であるため、今後も子育て家庭の支援の充実を図るために、機能充実を推進する必要がある。	①-1
教委生涯	5	5	5	講座参加人数はほぼ定員の参加があり、施策の推進が図られている。子育てについての理解を深めることは保護者の精神面における負担軽減や不安の解消にもつながることから、引き続き学習の内容を充実して子育て環境を整備していく必要がある。	①-2
② 子育てサークル活動など、親子の交流促進を支援します。					
子ども福祉	5	5	3	引き続き育児サークルへの補助等を通して、親子の交流促進を行い、子育て家庭同士の交流を促進することで、子育て環境の向上を図る必要がある。	②-1
<b>(2) 幼稚園教育の促進</b>					
① 私立幼稚園と公立保育園の連携、小学校との連携などを強化します。					
教委管理	5	5	5	保健福祉部とも連携しながら、施策の推進が図られている。今後も連携のあり方について検討していく必要がある。	①-1
② 保護者のニーズに応じて、受け入れ体制の充実を要請します。					
教委管理	5	5	5	保護者からの要望について、ただ要望を待つだけでなく、保護者が要望しやすいような環境づくりも検討しながら、可能な範囲で受入体制の充実に努める必要がある。	②-1
③ 就園を希望する幼児が適切な教育を受けられるよう、幼稚園の整備について側面的に協力します。					
教委管理	5	5	5	幼稚園整備については、内容等を精査し、関係機関と連携を図りながら側面的に支援する必要がある。	③-1
④ 保護者の経済的負担を軽減するため、就園奨励金の助成に努めます。					
教委管理	5	5	5	就園奨励金により施策の推進が図られている。今後は、制度改正等に注視しながら、教育環境の向上に努める必要がある。	④-1
全施策の推進状況の平均値	5	5	4.71		

**6 指標の実績**

(1) 区分										
番号	目標指標名				説明					
1	幼稚園数				町内にある私立幼稚園の数					
(2) 指標の推移										
番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%	
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度		
1	園	2	H21	2	2	2	2	H26	100.0	
(3) 特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)										
番号	内容									
1										

施策区分	(1) 幼児を対象とした子育て支援	担当課	子ども福祉課
施策	① 幼児教育に関する相談や学習機会の充実に努めます。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	子育て支援センター設置箇所数		子育て全般に関する相談業務を行う子育て支援センターの設置箇所数			
数値2	相談件数		子育て支援センターにおける相談件数			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	箇所	2	3	3	3	【H23】木野南保育園に子育て支援センターを併設した。
	基準年度比(%)		50.0	50.0	50.0	
数値2	件	809	960	1,412	1,185	
	基準年度比(%)		18.7	74.5	46.5	

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	5	子育て支援に係る相談機能等の充実のために必要な施策である。		5	子育て支援センターを増設し、子育て支援の充実ができた。	
24年度	5	同上		5	昨年度、子育て支援センターを増設し、利用者への周知等を行った結果、相談件数も大幅に増加した。	
25年度	5	同上		5	子育て支援センターの相談件数は、一定程度落ち着き減少したが、3箇所のセンターの連携等により子育て家庭の支援の充実に図っている。	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	子育て支援センターを2箇所から3箇所とし、27年度までに4箇所を目標とする子育て支援センターの機能充実を図る保育環境の整備は順調に進行している。	施策の題	今後も現施策を推進するとともに、子育て関連に関する法律の制定や改正が予定されていることから、それらに沿った保育環境の整備を進める必要がある。
総合評価(方向性)	相談件数は、一定程度落ち着き減少したものの、3箇所のセンターが連携し、施策の推進が図られている。核家族化やひとり親等が増えている社会情勢において、子育て支援センターの役割は重要であるため、今後も子育て家庭の支援の充実に図るために、機能充実を推進する必要がある。		

(1) 幼児を対象とした子育て支援 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	子育て支援センターにおける相談実施	3,700	7,400	7,400	7,400	【H23】木野南保育園に併設したきの子育て支援センターを創設
合 計		3,700	7,400	7,400	7,400	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
0	相談件数	件	809	960	1,412	1,185	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	3	3	3	3	3	3	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00		達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(1) 幼児を対象とした子育て支援	担当課	生涯学習課
施策	① 幼児教育に関する相談や学習機会の充実に努めます。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	幼児家庭教育学級(ママの講座)の学級生				ママの講座を受講した人の人数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	39	40	40	39	
		基準年度比(%)	2.6	2.6	0.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	5	子供をよりよく育てるための知識・能力を身につけ、子育てについての理解を深め、心豊かな家庭の創造を目指すため、幼児期における家庭教育は重要である。		5	子育てについての知識・能力を身につけると共に、学級生との情報交換を通じて子育ての悩み・不安の解決に役立っている。	
24年度	5	同上		5	前年度同様に定員の40名の参加があり、子育ての知識・能力習得や、学級生との情報交換を通じた子育ての悩み・不安の解決に役立っている。	
25年度	5	同上		5	子育てについての知識・能力を身につけると共に、学級生との情報交換を通じて子育ての悩み・不安の解決に役立っている。	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成23年度から通年で募集しており、ほぼ定員どおりの39名が受講した。	施策の題	施策に課題等はなく、今後も現施策により推進する。
総合評価(方向性)	講座参加人数はほぼ定員の参加があり、施策の推進が図られている。子育てについての理解を深めることは保護者の精神面における負担軽減や不安の解消にもつながることから、引き続き学習の内容を充実して子育て環境を整備していく必要がある。		

(1) 幼児を対象とした子育て支援 施策① - 2

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	学級講座の開設	298	246	366	327	【】
2	子育てテレホンサービス					【】
3	家庭教育電話相談	45	45	45	45	【】
合 計		343	291	411	372	

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	ママの講座の開催	回	10	10	10	10	【】
2	子育てテレホンサービスの利用	件	213	137	1,086	1,287	【】
3	家庭教育電話相談の利用	件	7	7	2	1	【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
3	3	3	3	3	3	3	3	2	1
								3	2
								2	1
								1	
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

施策に対する事務事業の貢献度  
 3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

施策に対する事務事業の達成度  
 3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(1) 幼児を対象とした子育て支援	担当課	子ども福祉課
施策	② 子育てサークル活動など、親子の交流促進を支援します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	育児サークル連絡協議会補助		育児サークル連絡協議会に対する活動補助			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	100	100	100	100	
		基準年度比(%)	0.0	0.0	0.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	子育て家庭、特に保育園等を利用していない家庭への子育て支援及び親子交流の促進が必要である。	5	子育て家庭、特に保育園等を利用していない家庭への子育て支援及び親子交流の促進を行うことができた。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	3	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	育児サークル連絡協議会への助成額は一定である。育児サークル連絡協議会への助成を行うことにより、子育て家庭同士の交流が促進できた。	施策の課題	育児サークル連絡協議会への加入が減少してきている。
総合評価(方向性)	引き続き育児サークルへの補助等を通して、親子の交流促進を行い、子育て家庭同士の交流を促進することで、子育て環境の向上を図る必要がある。		

**(1) 幼児を対象とした子育て支援**      **施策② - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	育児サークル連絡協議会補助	100	100	100	100	【】
合 計		100	100	100	100	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	育児サークル連絡協議会補助	千円	100	100	100	100	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

達成度

施策に対する事務事業の達成度	
3	順調に進んでいる(80~100%)
2	ある程度進んでいる(50~79%)
1	遅れがある、未着手(50%未満)



施策区分	(2)幼稚園教育の促進	担当課	管理課
施策	① 私立幼稚園と公立保育園の連携、小学校との連携などを強化します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	教育の日推進事業				家庭、地域、幼稚園、保育園、学校、行政が一体となって本町の子どもたちを育てていくことを目的として、おとふけ「教育を考える日」を制定し、記念事業を実施する。	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	回	0	0	1	1	22年度から検討を重ね、24年度から実施している。
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	家庭、地域、幼稚園、保育園、学校、行政が一体となって本町の子どもたちを育てていくという共通認識を持つ機会として必要である。		5	幼稚園、保育園、小学校の関係者が一体となって事業を実施しており、一体となって本町の子どもたちを育てていくという共通認識が図られている。
24年度	3	同上		5	同上
25年度	3	同上		5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	幼小接続をスムーズに行う観点から、連携を推進し、家庭、地域、幼稚園、保育園、学校、行政が一体となって、おとふけ「教育を考える日」を制定し、記念行事を実施している。	施策の題	該当する幼児・児童がいない場合もあるため、数値化が困難である。
総合評価(方向性)	保健福祉部とも連携しながら、施策の推進が図られている。今後も連携のあり方について検討していく必要がある。		

(2)幼稚園教育の促進 施策① - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	教育の日推進事業			700	1,000	【22年度から検討を重ね、24年度から実施している。】
合 計				700	1,000	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	おとふけ「教育を考える日」記念フェスタ	回			1	1	【22年度から検討を重ね、24年度から実施している。】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1			3	3	3	3	3	2	1
平均			3.00	3.00	3.00	3.00			

施策区分	(2)幼稚園教育の促進	担当課	管理課
施策	② 保護者のニーズに応じて、受け入れ体制の充実を要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	幼稚園への要請回数				保護者のニーズに応じて、受入体制の充実を要請する。	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	回	0	0	0	0	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	保護者のニーズに応じて、受け入れ体制の充実を要請する必要がある。		5	現状において、保護者から具体的な要請はない。
24年度	3	同上		5	同上
25年度	3	同上		5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	保護者のニーズに応じて受け入れ体制の充実を要請することとしているが、具体的な要請は来ていない。	施策の課題	保護者ニーズに応じて対応することとしているため、数値化は困難である。
総合評価(方向性)	保護者からの要望について、ただ要望を待つだけでなく、保護者が要望しやすいような環境づくりも検討しながら、可能な範囲で受入体制の充実にも努める必要がある。		

(2)幼稚園教育の促進 施策② - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1						
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	幼稚園への要請回数	回					【保護者のニーズに応じて、受入体制の充実を要請する。】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

達成度

施策に対する事務事業の達成度	
3	順調に進んでいる(80~100%)
2	ある程度進んでいる(50~79%)
1	遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)幼稚園教育の促進	担当課	管理課
施策	③ 就園を希望する幼児が適切な教育を受けられるよう、幼稚園の整備について側面的に協力します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	幼稚園整備の協力回数				幼稚園の整備について側面的に協力していく。	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	回	0	0	0	0	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	3	就園を希望する幼児が適切な教育を受けられるよう、幼稚園の整備について側面的に協力していく必要がある。		5	幼稚園の整備について、制度改正の動向も踏まえて検討していく。	
24年度	3	同上		5	同上	
25年度	3	同上		5	同上	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	幼稚園の整備について側面的に協力していく体制をとっているが、具体的な要望等はない。	施策の題	幼稚園の整備については、ハードとソフトの両面から考える必要があり、状況によって変化することがあるため、施策の推進状況の目安となる数値による評価が難しい。
総合評価(方向性)	幼稚園整備については、内容等を精査し、関係機関と連携を図りながら側面的に支援する必要がある。		



施策区分	(2)幼稚園教育の促進	担当課	管理課
施策	④ 保護者の経済的負担を軽減するため、就園奨励金の助成に努めます。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	幼稚園就園奨励補助対象人数		私立幼稚園に就園する幼児の保護者に対して、その費用を助成した人数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	439	412	394	412	
		基準年度比(%)	△ 6.2	△ 10.3	△ 6.2	
数値2						
		基準年度比(%)				

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	私立幼稚園に就園する幼児の保護者に対して、その費用を助成することは、幼児教育を推進する観点から、必要な施策である。	5	幼稚園就園費を助成することにより、幼児教育の推進が図られている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	対象幼児数に増減はあるが、施策自体は順調に推移しており、施策の目的が達成されている。	施策の課題	幼児教育の段階的無償化が予定されているため、制度改正の動向を注視し、施策を推進する必要がある。
総合評価(方向性)	就園奨励金により施策の推進が図られている。今後は、制度改正等に注視しながら、教育環境の向上に努める必要がある。		

(2)幼稚園教育の促進 施策④ - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、 実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	幼稚園就園奨励事業	35,839	33,856	35,990	41,273	【国庫補助単価が改正されたため、平成25年度の実績額が増加した。】
合 計		35,839	33,856	35,990	41,273	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	幼稚園就園奨励補助対象人数	人	439	412	394	412	【幼児教育の段階的無償化が予定されているため、制度改革の動向に注意する必要がある。】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			



### 第3章 心豊かな人を育むまち

#### 第1節 子どもの教育

#### 分野(評価項目) 2 義務教育

総合計画  
参照ページ

P. 72

##### 1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町には、小学校が14校、中学校が5校あります。
- 子どもたちの「生きる力」を育てるため、教育機能を十分に発揮し、地域に根ざした教育に取り組んでいます。信頼される学校づくりが求められており、学習指導要領に基づく確かな教育課程の展開をはじめ、学校運営に関わる情報を積極的に提供するなど、保護者や地域に開かれた学校運営を推進していくことが必要です。
- 施設については、校舎の改築や屋外運動場、プールなどの計画的な整備が必要です。

##### 2 計画策定時の「めざす方向」

- 確かな学力、豊かな心、健やかな体をはぐくむため、学校経営を支援する体制を整えるとともに、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学の連携を促進します。

##### 3 推進状況

###### (1)これまでの主な取り組みと成果

施設面においては、耐震化や老朽化への対応、エコスクールの推進、図書、パソコンの整備、給食施設のドライフロアー化など、教職員住宅も含めた施設の維持管理、改修を進める一方で、音更中学校改築工事が平成25年度に完了した。教育内容については、体験道徳教育の充実、英語指導助手としての外国人青年の招致、必要教材の配布、大会参加費の補助、おとづけ給食による食育の内容充実を図っている。また、教育をサポートする体制として、心の教室相談員などの計画的配置、特別支援教育学習支援員の設置、学校評議員制度による地域や保護者の意見を学校運営に反映させる仕組み、教職員研修の実施、就学援助費の助成による経済的施策など、ハード面、ソフト面からの義務教育を充実させる事業を推進している。

###### (2)残されている課題等

教育内容、サポート体制については、今後も現施策を推進する。ハード面については、施設、整備されたパソコン、スクールバスなど、維持管理に係る費用の増加に対し、計画的に進めていくことが課題となっている。

##### 4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	4.74	分野全体の達成状況	A	A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49) C 計画を下回っている(3.00～3.99) D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)
------------	------	-----------	---	--

5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策						
施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記号	策 照 号
施策						
所管課						
<b>(1)教育環境の整備</b>						
★	① 老朽化や耐震性、児童生徒数の動向などに応じて、学校教育施設を計画的に改修、整備します。					
教委管理	4	4	4	建物構造体の耐震補強は100%完了し、施策の推進が図られている。今後は非構造部材を中心として、安全・安心な教育環境や災害時の避難所としての観点から耐震化、老朽化対策に取り組み、計画的に整備を進めていく必要がある。	①-1	
	② 環境にやさしい設備を整えたエコスクールの整備を進めます。					
教委管理	5	5	5	既存施設の改修や設備機器の更新などについて、エコスクール整備を進めながら、財政負担等についても考慮し、計画的な整備が必要である。	②-1	
	③ 自校給食施設などについては、ドライブアウェイ方式への整備を計画的に進めます。					
教委管理	2	3	4	必要性や重要性を正確に把握しながら、計画的に整備を進める必要がある。	③-1	
★	④ 学校図書、パソコンなど教育に必要な環境整備に努めます。					
教委管理	5	5	5	年次計画により教育環境の整備を進めている。パソコンについては今後も台数不足等による支障をきたさないよう学習環境の整備に努める必要がある。	④-1	
	⑤ スクールバス運行、遠距離通学費への助成を継続します。					
教委管理	5	5	5	町内の義務教育児童生徒が、どこに住居地でも公平に教育が受けられるよう、引き続き施策の推進を図る必要がある。	⑤-1	
	⑥ 教職員住宅の老朽化に伴う改修、整備を計画的に進め、居住環境の改善に努めます。					
教委管理	3	4	4	教員住宅については、改修の必要性や必要戸数等を把握しながら合理的に維持管理を進める必要がある。	⑥-1	
<b>(2)義務教育内容の充実</b>						
★	① 確かな学力をはぐむため、学習指導要領に基づき、個に応じたきめ細かな指導を展開します。					
教委管理	4	4	4	学力向上のため、学習指導要領に基づく教育課程の展開に加え、小学校における英語活動へのALT派遣や家庭学習用の手引きの配布など、サポートを行う必要がある。	①-1	
★	② 一人ひとりの良さを伸ばす教育、創意工夫を生かした特色ある教育の実践を支援します。					
教委管理	4	4	4	実施事業により施策の推進が図られている。スポーツや総合学習など、普段の授業とは異なる特色ある教育により、児童生徒の意欲向上や長所を伸ばしていくために、引き続き支援の継続が必要である。	②-1	
	③ 豊かな心をはぐむため、道徳の授業を要とした道徳教育の充実をはかります。					
教委管理	5	5	5	道徳の重要性が高まる現代の中で、より良い授業展開が行われるよう、教員のスキルアップも含め施策を推進する必要がある。	③-1	
	④ 時代の変化に対応した教育を行うため、環境やエネルギー問題、国際化、情報化などに対応した教育を進めます。					
教委管理	5	5	5	時代の変化に対応して、町としてできる範囲の支援や学習機会を提供し施策の推進を図る必要がある。	④-1	
	⑤ 健やかな体をはぐむため、食育の観点から学校給食の充実に努めます。					
教委管理	5	5	5	音更町の学校給食に関する満足度は高いため、引き続き食育を中心とした学校給食の充実に努める必要がある。	⑤-1	

⑥ いじめ、不登校、暴力行為などを解決するため、相談体制を充実させます。					
教委管理	5	5	5	子どもの抱える問題が多様化している中で、様々な相談に対応できるよう施策を推進していく必要がある。	⑥-1
⑦ 保護者や地域に開かれた学校運営をめざし、「学校評議員制度」の運営に努めます。					
教委管理	5	5	5	学校評議会制度により施策の推進が図られている。引き続き保護者の意見を取り入れながら、教育環境の充実に努める。	⑦-1
⑧ 教職員の資質・能力向上に資する研修事業を支援します。					
教委管理	5	5	5	教職員の資質・能力の向上を図るため、今後も研修機会の充実や内容の検討を行う。	⑧-1
⑨ 必要に応じて、学校教材備品を整備します。					
教委管理	5	5	5	教育現場の意見・要望を取り入れながら、教材の吟味を行い、施策の推進を図る必要がある。	⑨-1
⑩ 保護者の経済的負担を軽減するため、就学援助費の助成に努めます。					
教委管理	5	5	5	家庭環境により、教育を受けられない子どもが出ないよう、引き続き就学援助を行っていく必要がある。	⑩-1
<b>(3)特別支援教育の充実</b>					
① 特別支援学級、通級指導学級における自立支援を充実させるため、個別指導計画、個別支援計画を整備します。					
教委管理	5	5	5	特別支援を必要とする児童生徒が増えているため、特別支援学級、通級指導学級の体制・内容の充実を検討しながら施策の推進を図る必要がある。	①-1
② 障がいのある児童生徒が自立して社会参加ができるよう、適正な指導を進めます。					
教委管理	5	5	5	障がいがある児童生徒の状況等に合わせ、指導内容を検討しながら引き続き支援を行っていく必要がある。	②-1
③ 教育機器、訓練機器の整備、充実をはかります。					
教委管理	5	5	5	特別支援を必要とする児童生徒がより良い教育を受けられるよう、現場の要望意見を取り入れながら備品購入等を行っていく必要がある。	③-1
全施策の推進状況の平均値	4.58	4.68	4.74		

6 指標の実績		
(1)区分		
番号	目標指標名	説明
1	「教育・スポーツ・文化・国際交流などについて」の「小・中学校の教育環境」に対する市民の満足度	平成20年まちづくり市民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
2	「教育・スポーツ・文化・国際交流などについて」の「障害のある児童などの教育環境」に対する市民の満足度	平成20年まちづくり市民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
3	学校図書の本数の整備	学校図書館図書標準冊数に対する進捗率
4	小学校児童用コンピュータの整備	小学校における児童用コンピュータの整備台数
5		
6		

(2) 指標の推移

番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比 (ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1	%	80.0	H20	81.6	81.3	82.9	82.0	H27	101.1
2	%	80.6	H20	83.9	81.3	82.6	82	H27	100.7
3	%	80	H21	70.1	74.7	78.6	90	H26	87.3
4	台/人	0.25~0.5	H21	0.869	0.869	0.869	0.5	H26	173.8
5									
6									

(3) 特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)

番号	内容
1	
2	
3	
4	現状地は、4人に1台から2人に1台の割合
5	
6	

施策区分	(1)教育環境の整備	担当課	管理課
施策	① 老朽化や耐震性、児童生徒数の動向などに応じて、学校教育施設を計画的に改修、整備します。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	耐震化率(構造部材)		もともと耐震性がある建物に加え耐震改修を実施した建物の全体に占める割合			
数値2	教育施設整備計画件数		教育施設整備計画(10年計画)に計上した予定工事の実施件数			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	%	84.5	96.6	96.6	100.0	【H25】音更中学校の改築工事完了に伴い100%達成
	基準年度比(%)		14.3	14.3	18.3	
数値2	件	22	34	16	15	
	基準年度比(%)		54.5	△ 27.3	△ 31.8	

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	5	学校建物の長寿命化を図る上で屋上防水の改修、外壁の防水塗装改修等、耐用年数を考慮した改修計画を推進する。また、学校設備には耐用年数、耐用運転時間を超過した設備が多いため、これらの設備の更新を推進する。	4	改修を実施している音更中学校を除き、建物構造体の耐震補強は23年度で100%完了した。
24年度	5	同上	4	音更中学校の改築は25年度で終了予定で、これにより建物構造体の耐震補強は完了する。今後は他の学校の施設、整備等の改修を進めていく必要がある。25年度からは新たに非構造部材の耐震補強に取り組む。
25年度	5	同上	4	音更中学校の改築工事が完了したことで、建物構造体の耐震補強は100%完了した。また、非構造部材の耐震化に向け、対象施設の調査を実施した。しかし、教育施設整備計画からはやや遅れが見られる。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	24年度から実施していた音更中学校改築工事は25年度に完了した。また、プール上屋の改修は順調に進んでいる。	施策の課題	現施策により推進していくが、非構造部材の耐震補強とあわせて昭和50年代建設された施設設備の更新、平成初期年度建設の建物の外部防水塗装改修等が喫緊の課題である。
総合評価(方向性)	建物構造体の耐震補強は100%完了し、施策の推進が図られている。今後は非構造部材を中心として、安全・安心な教育環境や災害時の避難所としての観点から耐震化、老朽化対策に取り組み、計画的に整備を進めていく必要がある。		

(1)教育環境の整備 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等						
事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	小学校耐震補強	12,730	103,999		3,019	小学校屋内体育館整備を含む 【H23】下土幌、木野東、柳町 【H25】非構造部材耐震調査 14校
2	小学校整備				2,141	【H25】下音更2件
3	小学校校舎整備	3,141	15,727	11,692	2,102	【H23】西中音更、木野東、建具等購入 【H24】緑陽台、小学校防犯対策工事、建具等購入 【H25】鈴蘭、建具等購入
4	小学校屋内体育館整備		3,139	4,588		【H23】緑陽台2件、柳町 【H24】西中音更
5	小学校屋外運動場再整備		7,445			【H23】音更
6	小学校水泳プール施設整備	13,503	19,412	19,361	20,696	【H23】緑陽台、東土幌 【H24】西中音更、下土幌、昭和、豊田 【H25】駒場、音更
7	小学校設備更新	11,272	31,287	15,032	32,540	【H23】柳町、木野東3件、東土狩 【H24】鈴蘭、音更2件、南中音更 【H25】音更、緑陽台、西中、鈴蘭3件、柳町5件、昭和2件
8	小学校遊具再整備	7,035	7,403	6,877	6,969	
9	中学校耐震補強	109,397	226,082		814	中学校屋内体育館整備を含む 【H23】下音更2棟、駒場、緑南 【H25】非構造部材耐震調査 5校
10	音更中学校改築事業	6,183	16,559	895,833	1,157,283	【H23】中学校校舎及び屋内運動場基本設計業務 【H24】校舎、屋内運動場等
11	中学校整備				1,168	【H25】音更、緑南、共栄、建具等購入
12	中学校校舎整備	407,757	98	2,988		【H23】建具等購入 【H24】中学校防犯対策工事、建具等購入
13	中学校屋外運動場再整備	40,318		941		【H24】共栄
14	中学校設備更新	32,351	4,258	420	7,988	【H23】緑南、音更 【H24】共栄、【H25】共栄2件、下音更
合 計		643,687	435,409	957,732	1,234,720	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	耐震補強棟数	棟	1	3			【H23】下土幌、木野東、柳町 【H25】非構造部材耐震調査 14校(次年度実施)
2	工事件数	件				2	【H25】下音更2件

3	工事件数	件	2	3	3	2	【H23】西中音更、木野東、建具等購入 【H24】緑陽台、小学校防犯対策工事、建具等購入 【H25】鈴蘭、建具等購入
4	工事件数	件		3	1		【H23】緑陽台2件、柳町 【H24】西中音更
5	再整備校数	校		1			【H23】音更
6	再整備校数	校	1	2	4	2	【H23】緑陽台、東士幌 【H24】西中音更、下士幌、昭和、豊田 【H25】駒場、音更
7	工事件数	件	6	5	4	13	【H23】柳町、木野東3件、東士狩 【H24】鈴蘭、音更2件、南中音更 【H25】音更、緑陽台、西中、鈴蘭3件、柳町5件、昭和2件
8	新規遊具設置数	基		5	4	4	
9	工事件数	件	1	4			【H23】下音更2棟、駒場、緑南 【H25】非構造部材耐震調査 5校
10	工事件数	件		1	1	1	【H23】中学校校舎及び屋内運動場基本設計業務 【H24】校舎、屋内運動場等
11	工事件数	件				4	【H25】音更、緑南、共栄、建具等購入
12	工事件数	件	5	1	2		【H23】建具等購入 【H24】中学校防犯対策工事、建具等購入
13	工事件数	件	1		1		【H24】共栄
14	工事件数	件	4	2	1	3	【H23】緑南、音更 【H24】共栄、【H25】共栄2件、下音更

### (3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度		
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度				
1	3	3					貢献度	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
2					3	3		2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
3	3	1	3	1	3	3		1	貢献していない。	
4	3	1	3	1			達成度	施策に対する事務事業の達成度		
5	3	1						3	順調に進んでいる(80~100%)	
6	3	2	3	2	3	3		2	ある程度進んでいる(50~79%)	
7	3	1	3	1	3	3		1	遅れがある、未着手(50%未満)	
8	3	2	3	3	3	3				
9	3	3			3	3				
10	3	1	3	2	3	3				
11					3	3				
12	3	2	3	2						
13			3	1						
14	3	1	3	1	3	3				
平均	3.00	1.64	3.00	1.56	3.00	3.00				



施策区分	(1)教育環境の整備	担当課	管理課
施策	② 環境にやさしい設備を整えたエコスクールの整備を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	音更中学校の改築工事		工事の進捗率			
数値2	教育施設の省エネ化		エネルギー使用量(原単位)			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	%	0	1	44	100	【H25】音更中学校の改築工事完了に伴い100%達成
	基準年度比(%)					
数値2	kl/m <sup>2</sup>	0	0	0	0	
	基準年度比(%)		0.2	△ 0.5	△ 6.0	

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	5	施設に省エネルギー効果の高い設備を整備することは、地球温暖化対策の上で重要である。		5	地中熱利用のヒートポンプ暖房、間欠運転に対応した個別暖房機器及び自然冷媒(CO2)を利用した業務用ヒートポンプ給湯機を採用することにより、施設推進を図っている。	
24年度	5	同上		5	平成24年度国の第1次補正を利用して、繰越により25年度も事業を進める。	
25年度	5	同上		5	平成25年度をもって音更中学校の改築工事が完了し、年間エネルギー使用量の削減に繋がった。	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成24年度から実施していた音更中学校改築工事が25年度に完了し、教育施設全体の年間エネルギー使用量の削減に繋がっている。	施策の題	今後は既存施設に省エネルギー効果の高い設備を整備するなど、エコスクールの推進に努める必要がある。
総合評価(方向性)	既存施設の改修や設備機器の更新などについて、エコスクール整備を進めながら、財政負担等についても考慮し、計画的な整備が必要である。		





施策区分	(1)教育環境の整備	担当課	管理課
施策	③ 自校給食施設などについては、ドライフロア方式への整備を計画的に進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	改修施設数		ドライフロア化への改修を実施した学校数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	校		1	1	1	
	基準年度比(%)					
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	5	平成23年度の保健所の現地検査において指摘のあった項目であり計画的に改修することの報告をしている。	2	共栄中学校の給食室をドライフロア方式へ改修した。残り5校の整備を要する。
24年度	5	同上	3	柳町小学校の給食室をドライフロア方式へ改修した。残り4校の整備を要する。
25年度	5	同上	4	緑陽台小学校の給食室をドライフロア方式へ改修した。また、音更中学校の給食室を校舎改築に伴い、ドライフロア方式で整備した。残り2校の整備を要する。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	給食室においてドライフロア方式への改修が必要な全6校のうち、3校の改修と1校の改築工事が完了している。	施策の題	安全な給食を提供するために、2校においてウェットフロアの給食室をドライフロア方式へ改修する必要がある。
総合評価(方向性)	必要性や重要性を正確に把握しながら、計画的に整備を進める必要がある。		

(1)教育環境の整備 施策③ - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	音更中学校改築事業	6,183	16,559	895,833	1,157,283	【H25】音更中学校は改築工事完成に伴い、給食室のドライフロアー化が完了した。
2	給食室床改修		2,730	6,195	8,033	【H23】共栄中学校、【H24】柳町小学校、【H25】緑陽台小学校
合 計		6,183	19,289	902,028	1,165,316	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	事業費	千円	6,183	16,559	895,833	1,157,283	【H25】音更中学校は改築工事完成に伴い、給食室のドライフロアー化が完了した。
2	再整備校数	校		1	1	1	【H23】共栄中学校、【H24】柳町小学校、【H25】緑陽台小学校

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	1	3	2	3	3	3	2	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
2	3	1	3	1	3	2			
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3	順調に進んでいる(80~100%)
								2	ある程度進んでいる(50~79%)
								1	遅れがある、未着手(50%未満)
平均	3.00	1.00	3.00	1.50	3.00	2.50			

施策区分	(1)教育環境の整備	担当課	管理課
施策	④ 学校図書、パソコンなど教育に必要な環境整備に努めます。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	学校図書の整備		学校図書館図書標準冊数に対する達成率			
数値2	整備台数		コンピュータ1台当たりの児童生徒数(学級ベース)			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	%	80.0	60.0	70.0	75.0	
	基準年度比(%)		△ 25.0	△ 12.5	△ 6.3	
数値2	台	0	1	1	1	
	基準年度比(%)		131.7	138.7	166.7	

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	5	確かな学力、豊かな心を育むための環境整備として、図書の整備やパソコンの児童生徒への配備は必要な施策である。		5	学校図書については、標準冊数の定めがあり、計画的に整備を行っている。 パソコンについては、小学校においては児童2人に1台(学級ベース)での更新が行われている。
24年度	5	同上		5	学校図書については、平成23年度末(平成24年度の調査)では、標準冊数152,440冊に対して、106,929冊となっている。(隔年調査) パソコンについては、本年度は、下音更中学校(40台)と、共栄中学校(40台)の整備を行った。
25年度	5	同上		5	学校図書については、標準冊数の定めがあり、計画的に整備を行っている。平成24年度末(平成25年度の調査)では、標準冊数151,480冊に体して、113,176冊となっている。 パソコンについては、本年度は、音更中学校(40台)と、緑南中学校(40台)の整備を行った。
評価基準	5	重点及び早急に推進することが必要な施策		5	成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%)
	4	更なる推進が必要な施策		4	ある程度進んでいる(50~80%未満)
	3	現状で推進する施策		3	あまり進んでいない・遅れがある(20~50%未満)
	2	現状においては推進に時間を要する施策		2	着手した程度(20%未満)
	1	制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		1	未着手(0%)

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	学校図書については、陳腐化等による図書の廃棄により平成23年度は達成率が下がっているが、その後は徐々に上がっている。 パソコンについては、平成23年度で小学校は児童2人に1台となっており、平成24年度から中学校の整備を行い、学級ベース1人1台となっている。今後は、小学校における1人1台の整備を進める必要がある。	施策の題	今後も現施策により推進していくが、学校図書については、内容の陳腐化や劣化による廃棄があるため、達成率の向上が難しい面がある。パソコンについては、整備台数が増えることによる費用の増加が課題となる。
総合評価(方向性)	年次計画により教育環境の整備を進めている。パソコンについては今後も台数不足等による支障をきたさないよう学習環境の整備に努める必要がある。		

(1)教育環境の整備 施策④ - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	教育用コンピュータ整備	31,967	10,390	11,883	13,297	備荒資金組合への返還金の額とする
2	小学校図書購入費	8,630	5,009	4,957	5,058	前年度並みで推移。図書の陳腐化に伴う計画的な整備が課題となっている。
3	中学校図書購入費	4,328	2,728	2,731	3,114	前年度並みで推移。図書の陳腐化に伴う計画的な整備が課題となっている。
合 計		44,925	18,127	19,571	21,469	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	教育用コンピュータ整備	人/台	0	1	1	1	【】
2	小学校図書標準冊数達成率	%	82	63	77	83	いずれも前年度末の数値 22年度に古い図書の整理を行ったため、達成率が下がっている。
3	中学校図書標準冊数達成率	%	75	56	58	60	いずれも前年度末の数値 22年度に古い図書の整理を行ったため、達成率が下がっている。

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度		
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2	
1	2	3	3	3	3	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度		
2	3	2	3	3	3	3		3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)		
3	3	2	3	3	3	3				
平均	2.67	2.33	3.00	3.00	3.00	3.00				

施策区分	(1)教育環境の整備	担当課	管理課
施策	⑤ スクールバス運行、遠距離通学費への助成を継続します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	スクールバス利用人数		スクールバスを利用している児童生徒数			
数値2	遠距離通学費支給人数		小学校4km以上、中学校6km以上の通学距離のあるものでスクールバス利用者以外に対し通学費を補助する。			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	183	177	192	199	
		基準年度比(%)	△ 3.3	4.9	8.7	
数値2	人	22	22	26	22	
		基準年度比(%)	0.0	18.2	0.0	

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	スクールバス及び遠距離通学費についてはその年度により利用者及び支給者数に増減があるため、進捗状況にプラスマイナスが生じるが、今後についても児童生徒の通学支援のため必要である。	5	利用者数・支給者数とも人数に計画性をもてないため、数値計画は立てていないが、スクールバス路線数は維持している。また、遠距離通学費についても例年通り年3回の支給している。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	スクールバスの運行については、必要な路線数を維持しているとともに、遠距離通学費の支給については、計画どおり支給している。	施策の課題	スクールバスの老朽化により修繕費等の維持費が増加している。
総合評価 (方向性)	町内の義務教育児童生徒が、どこの居住地でも公平に教育が受けられるよう、引き続き施策の推進を図る必要がある。		

(1)教育環境の整備 施策⑤ - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	スクールバス更新		22,875	6,498	23,536	【】H23大型、H24マイクロ、H25大型
2	スクールバス運行経費	54,620	54,481	55,767	55,688	【】H24から5年間の長期継続契約により運行管理委託業務が締結され、その結果燃料費の高騰等により増額
3	遠距離通学費補助	376	256	370	435	【】
合 計		54,996	77,612	62,635	79,659	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	スクールバス更新台数	台		1	1	1	【】
2	スクールバス運行経費	千円	54,620	54,481	55,767	55,688	【】
3	遠距離通学費支給人数	人	22	22	26	22	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度		
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2	
1	2	3	2	3	2	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度		
2	3	3	2	3	2	3		3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)		
3	3	3	2	3	2	3				
平均	2.67	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00				

施策区分	(1)教育環境の整備	担当課	管理課
施策	⑥ 教職員住宅の老朽化に伴う改修、整備を計画的に進め、居住環境の改善に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	ユニットバス化率		ユニットバス化棟数÷教職員住宅入居者数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	%	39.7	46.7	50.7	56.9	
		基準年度比(%)	17.6	27.7	43.3	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	5	教職員住宅入居戸数75戸の内、ユニットバス化されている住宅は、平成23年度で35戸である。残りの住宅は土間コンクリートの上に浴槽が置いてあるだけの浴室で常に湿気が多い状態であり、住環境にも悪いため、改善が必要である。	3	平成23年度の事業開始であり、計画的に整備を進めていく。
24年度	5	未整備住宅が37戸あり、浴室は依然として常に湿気が多く、冬は寒い状態であるため、改善が必要な施策である。	4	3戸の整備を行い、整備率は51%となった。
25年度	5	未改修住宅が31戸あり、浴室は依然として常に湿気が多く、冬は寒い状態であるため、必要な施策である。	4	3戸の整備を行い、整備率は57%となった。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成25年度末現在で、41戸の教職員住宅において浴室のユニットバス化が完了した。	施策の題	入居している教職員住宅全ての浴室をユニットバス化するには、現在の年間整備戸数では10年以上必要である。
総合評価(方向性)	教員住宅については、改修の必要性や必要戸数等を把握しながら合理的に維持管理を進める必要がある。		



(1)教育環境の整備 施策⑥ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	教職員住宅再整備	8,021	10,684	11,427	6,878	【】
合 計		8,021	10,684	11,427	6,878	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	ユニットバス化棟数	棟		4	3	3	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	2	3	2	3	2	3	2	1
平均	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00			

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)義務教育内容の充実	担当課	管理課
施策	① 確かな学力をはぐくむため、学習指導要領に基づき、個に応じたきめ細かな指導を展開します。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	小学校英語活動サポート時数		小学校における英語活動への講師派遣(1クラス当たり)			
数値2	学力向上対策用印刷物配布		学力向上の手引き等を作成し、児童・生徒及び家庭へ配布			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	時間	15	15	15	15	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	
数値2	部	0	4,525	953	947	23年度から実施したものであり、22年度実績はない。24年度以降については小・中ともに新1年生に対し配布するため、全員に配布した23年度に比べ配布部数は減少する。
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	5	確かな学力を育むための英語活動サポートや学力向上対策など、きめ細かな指導は重要であり、今後も継続する必要がある。		4	英語活動については1クラス1年に15時間としており、学級数により変動する。また、手引き等については次年度以降配布数は減少する。	
24年度	5	同上		4	英語活動については1クラス1年に15時間を実施している。手引き等については、小学校、中学校共に新1年生に配布した。	
25年度	5	同上		4	英語活動については1クラス1年に15時間を実施している。手引き等については、小学校、中学校共に新1年生に配布した。今後は、学習指導要領の見直し等に対応しながら、各学校と協議し英語活動サポートの充実を図っていく。	
評価基準	5	重点及び早急に推進することが必要な施策		5	成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%)	
	4	更なる推進が必要な施策		4	ある程度進んでいる(50%~80%未満)	
	3	現状で推進する施策		3	あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満)	
	2	現状においては推進に時間を要する施策		2	着手した程度(20%未満)	
	1	制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		1	未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	小学校においては教科担任制ではないため、外部講師の派遣は必要と考え、1クラス15時間の講師派遣を行っている。また、学力向上の手引き等を小学校、中学校共に新1年生に配布している。	施策の題	施策に課題等はなく、今後も現施策により推進する。
総合評価(方向性)	学力向上のため、学習指導要領に基づく教育課程の展開に加え、小学校における英語活動へのALT派遣や家庭学習用の手引きの配布など、サポートを行う必要がある。		

(2)義務教育内容の充実 施策① - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	小学校外国語活動(外部英語講師)	2,157	2,261	2,301	2,265	
2	学力向上対策		563	412		【H24】2か年分印刷
3	学習指導要領に基づく活動(上記以外)					【H24・25】農園活動や職場体験等の活動を行った。
合 計		2,157	2,824	2,713	2,265	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	小学校外国語活動講師派遣(クラス当たり)	時間	15	15	15	15	
2	家庭学習の手引き等の配布	部	-	4,525	953	947	H24以降は小・中の新1年生のみ配布
3	学習指導要領に基づく活動を行った学校数	校	19	19	19	19	

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3	2	3	2	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度	
2	2	3	2	3	2	3			
3	2	3	2	3	2	3			
							達成度	3	順調に進んでいる(80~100%)
								2	ある程度進んでいる(50~79%)
								1	遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

施策区分	(2)義務教育内容の充実	担当課	管理課
施策	② 一人ひとりの良さを伸ばす教育、創意工夫を生かした特色ある教育の実践を支援します。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	各種大会参加補助支給人数				児童生徒の各種大会参加に係る費用の補助を行った人数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	3,536	3,637	3,548	3,574	
		基準年度比(%)	2.9	0.3	1.1	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	5	児童生徒個々の良さを伸ばすため必要な施策であり、教育課程に位置付けられている各種大会への参加補助を行っている。		4	参加人数については、地区予選の結果や団体・個人などで差が出るため、前年度対比は難しいが、申請があるものに対して補助を実施している。
24年度	5	同上		4	平成24年度は3,548人に補助を実施し、施策の推進を図っている。
25年度	5	同上		4	平成25年度は3,574人に補助を実施し、施策の推進を図っている。今後は更に、補助の内容を検討するなどして推進していく。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	教育課程に位置付けられている各種大会への参加費補助について、平成25年度は3,574人に支給した。	施策の題	施策に課題等はなく、今後も現施策により推進する。
総合評価(方向性)	実施事業により施策の推進が図られている。スポーツや総合学習など、普段の授業とは異なる特色ある教育により、児童生徒の意欲向上や長所を伸ばしていくために、引き続き支援の継続が必要である。		



施策区分	(2)義務教育内容の充実	担当課	管理課
施策	③ 豊かな心をはぐくむため、道徳の授業を要とした道徳教育の充実をはかります。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	道徳教育の年間指導時数		1学級当たりの年間指導時数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	時間	35	35	35	35	
		基準年度比(%)	0.0	0.0	0.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	新学習指導要領により年間指導時数が35時間となっている。(小学1年生については34時間)	5	各校とも指導要領に沿った時数で教育を行っている
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	指導要領に沿った時数で、体験活動の充実を図るなど実践的に取り組んでいる。	施策の課題	施策に課題等はなく、今後も現施策により推進する。
総合評価(方向性)	道徳の重要性が高まる現代の中で、より良い授業展開が行われるよう、教員のスキルアップも含め施策を推進する必要がある。		

(2)義務教育内容の充実 施策③ - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	道徳教育の充実					【】予算計上なし
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	道徳教育授業時数	時間	35	35	35	35	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3	2	3	2	3		3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
								2	貢献している(施策を推進する事務事業)
								1	貢献していない。
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

達成度	施策に対する事務事業の達成度	
	3	2
	3	順調に進んでいる(80~100%)
	2	ある程度進んでいる(50~79%)
	1	遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)義務教育内容の充実	担当課	管理課
施策	④ 時代の変化に対応した教育を行うため、環境やエネルギー問題、国際化、情報化などに対応した教育を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	外国青年招致人数				英語指導助手の招致人数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	1	1	1	1	
		基準年度比(%)	0.0	0.0	0.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	平成元年の招致以来1名の英語指導助手を配置しており、以前配置のあった国際交流員を廃止後は公民館講座なども受け持っており、町の国際交流事業の一端も担っている。		5	1名で各校を巡回し、英語指導助手業務を行っている。
24年度	3	同上		5	同上
25年度	3	同上		5	各中学校を巡回し、英語指導助手業務を行っている。 また、中学校の授業がない時間を利用して、希望する小学校へ指導に向いている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	計画どおり実施している。	施策の課題	施策に課題等はなく、今後も現施策により推進する。
総合評価(方向性)	時代の変化に対応して、町としてできる範囲の支援や学習機会を提供し施策の推進を図る必要がある。		



(2)義務教育内容の充実 施策④ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	外国青年招致事業(英語指導助手)	5,170	3,861	3,981	4,410	【22年度】英語指導助手の入れ替わりや公用車購入があり、帰国旅費や招致負担金等があったため、決算額が多い 【25年度】英語指導助手の入れ替わりがあったため、帰国旅費や招致負担金等が多くなった。
2	環境・エネルギー問題に関する教育					
3	情報化に関する教育					
合 計		5,170	3,861	3,981	4,410	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	外国青年招致事業	人	1	1	1	1	【】
2	環境・エネルギー問題に関する教育	コマ	小2、中3	小2、中3	小2、中3	小2、中3	【】
3	情報化に関する教育	コマ	小3、中4	小3、中4	小3、中4	小3、中4	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
3	3	3	3	3	3	3	3	2	1
								3	2
								2	1
								1	
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00		

達成度

3 順調に進んでいる(80~100%)  
2 ある程度進んでいる(50~79%)  
1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)義務教育内容の充実	担当課	管理課
施策	⑤ 健やかな体をはぐくむため、食育の観点から学校給食の充実に努めます。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	おとぶけ給食の実施回数		地場産品消費推進の観点からおとぶけ給食として地場産品の提供を受け、給食を実施			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	回	10	8	7	8	
	基準年度比(%)		△ 20.0	△ 30.0	△ 20.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	食育・地産地消の観点また、安心・安全な食の提供の必要性からも地場産品の使用が必要である。	5	地場産品消費推進協議会からの提供を受け、推進している。ただし、今後については更なる推進が必要と考える。
24年度	4	同上	5	同上
25年度	4	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	年度により実施回数のバラツキがあるが、計画どおり実行している。	施策の題	今後も食育・地産地消の観点から、各種事業や関係団体等と連携を図りながら推進する。
総合評価(方向性)	音更町の学校給食に関する満足度は高いため、引き続き食育を中心とした学校給食の充実に努める必要がある。		

(2)義務教育内容の充実 施策⑤ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	学校給食業務委託	93,445	97,624	99,347	100,982	【】
2	給食調理機器整備	16,148	4,553	3,808	3,929	【22年度】緑南中学校給食室改修に係る備品を含む
3	おとぶけ給食事業					地場産品消費拡大推進事業による
合 計		109,593	102,177	103,155	104,911	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	給食の満足度 (満足・やや満足・普通と回答した割)	%		82	82	80	【】
2	給食調理機器整備	個	51	97	33	78	【】
3	おとぶけ給食の実施	回	10	8	7	8	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	3	3	3	3	3	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
2	2	3	2	3	2	3		
3	2	3	2	3	2	3		
							達成度	3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.33	3.00	2.33	3.00	2.33	3.00		

施策区分	(2)義務教育内容の充実	担当課	管理課
施策	⑥ いじめ、不登校、暴力行為などを解決するため、相談体制を充実させます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	心の教室相談員の配置		心の教室相談員を配置し各校の要請により巡回する			
数値2	適応指導教室指導員の配置		不登校等の指導を行う者を適応指導教室に配置			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	1	1	1	1	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	
数値2	人	2	2	2	2	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	4	今後もいじめや不登校などの各種問題に取り組むためにも相談員や指導員の配置は必要		5	児童生徒の問題に対する教員以外の指導員等を配置し、子どもたちの抱える問題解決にあっている
24年度	4	同上		5	同上
25年度	4	同上		5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	心の教室相談員、適応指導教室指導員ともに計画どおり配置されており、不登校等の問題を抱えた児童生徒の拠り所のひとつとなっている。	施策の題	特に課題等はなく、現施策を推進する。
総合評価(方向性)	子どもの抱える問題が多様化している中で、様々な相談に対応できるよう施策を推進していく必要がある。		

(2)義務教育内容の充実 施策⑥ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	心の教室相談員の配置	617	863	835	919	【】
2	適応指導教室の設置	2,935	2,935	2,899	2,918	【】
3	いじめ対策検討委員会の設置	22	52	10	18	【】委員全員が教職員のため、費用弁償のみの支出とした。
合 計		3,574	3,850	3,744	3,855	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	心の教室相談員の配置	人	1	1	1	1	【】
2	適応指導教室指導員の配置	人	2	2	2	2	【】
3	いじめ対策委員会の開催	回	1	2	1	2	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
2	2	3	2	3	2	3		
3	2	3	2	3	2	3		
							達成度	施策に対する事務事業の達成度
								3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		

施策区分	(2)義務教育内容の充実	担当課	管理課
施策	⑦ 保護者や地域に開かれた学校運営をめざし、「学校評議員制度」の運営に努めます。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	学校評議員数		学校評議員の委嘱数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	84	88	86	86	
	基準年度比(%)		4.8	2.4	2.4	
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	保護者や地域の意見を反映し、開かれた学校運営を行うために必要である。	5	保護者や地域の意見を反映した学校運営が行われた。
24年度	4	同上	5	同上
25年度	4	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	1校当たり年3~4回の会議を開催し、学校運営に必要な貴重な意見をいただいた。民生児童委員を含めることとしており、地域との連携を強化している。	施策の課題	継続的に人材を確保していくことが課題である。
総合評価(方向性)	学校評議会制度により施策の推進が図られている。引き続き保護者の意見を取り入れながら、教育環境の充実に努める。		

(2)義務教育内容の充実 施策⑦ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	学校評議員制度(小学校)	902	923	920	913	【】
2	学校評議員制度(中学校)	342	359	343	310	【】
合 計		1,244	1,282	1,263	1,223	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	学校評議員数(小学校)	人	62	64	63	63	【】
2	学校評議員数(中学校)	人	22	24	23	23	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
								3	2
								2	1
								1	
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

施策区分	(2)義務教育内容の充実	担当課	管理課
施策	⑧ 教職員の資質・能力向上に資する研修事業を支援します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	教職員研修費用		教職員の資質・能力を向上するため研修事業を実施した。			
数値2	対象教職員数		対象教職員の人数			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	3,002	2,909	3,042	2,843	
	基準年度比(%)		△ 3.1	1.3	△ 5.3	
数値2	人	357	366	366	374	
	基準年度比(%)		2.5	2.5	4.8	

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	教職員の資質・能力を向上するために必要である。	5	教職員に対する研修機会が確保された。
24年度	4	同上	5	同上
25年度	4	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	教職員に対する研修機会が確保された。金額、対象者数はほぼ横ばいで推移している。	施策の課題	教職員の職務の性質上、研修機会が長期休業期間中に集中する傾向がある。
総合評価(方向性)	教職員の資質・能力の向上を図るため、今後も研修機会の充実や内容の検討を行う。		



(2)義務教育内容の充実 施策⑧ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、 実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	教職員研修事業	3,002	2,909	3,042	2,843	【】
合 計		3,002	2,909	3,042	2,843	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	対象教員数	人	357	366	366	374	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)義務教育内容の充実	担当課	管理課
施策	⑨ 必要に応じて、学校教材備品を整備します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	学校教材備品購入				教材備品の購入に対する各校配当予算	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	円	6,156	6,156	6,156	6,156	
		基準年度比(%)	0.0	0.0	0.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	3	各校に対する配当であり、教育の推進に必要な教材教具を購入する		5	各校から要望を取りまとめ、一括購入している。入札により執行残が出た場合は、随時故障したものの更新を行っている。	
24年度	3	同上		5	同上	
25年度	3	同上		5	同上	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	新学習指導要領実施や、校舎改築などで整備備品数が多い年もあるが、各学校からの要望により教材を整備している。	施策の題	備品の老朽化により各学校の要望額が増加している。
総合評価(方向性)	教育現場の意見・要望を取り入れながら、教材の吟味を行い、施策の推進を図る必要がある。		

(2)義務教育内容の充実 施策⑨ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価							
(1)実績の推移等							
事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度		
1	学校教材備品整備	19,290	7,794	8,559	16,197	【H22】新学習指導要領実施のため補正予算により理科備品の整備や中学校の武道関係備品の整備を行った。 【H25】音更中学校改築に伴う教材備品の整備を行った。	
2	新設学級分教材備品	323	40	115	91	【H23】新設特別支援学級用の備品として学校からの要望が少なかった。	
合 計		19,613	7,834	8,674	16,288		
(2)代表的な成果の推移等							
事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	教材備品数	個	785	460	468	511	【】
2	新設学級分教材備品	個	16	15	2	6	【】
(3)事務事業の評価							
事業番号	23年度		24年度		25年度		施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度	
1			3	3	3	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
2			3	3	3	3	
							3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)
平均			3.00	3.00	3.00	3.00	

施策区分	(2)義務教育内容の充実	担当課	管理課
施策	⑩ 保護者の経済的負担を軽減するため、就学援助費の助成に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	就学援助受給者数		就学援助を受給する人数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	999	1,004	974	914	
		基準年度比(%)	0.5	△ 2.5	△ 8.5	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	経済的理由により就学困難な児童生徒への援助は今後も必要であり、今後状況を判断しながら更なる推進が求められることもあり得る	5	経済的理由により就学困難な児童生徒に対し、経費負担の軽減を図っている。また、平成23年度からは支給対象費目にPTA会費、生徒会費及びクラブ活動費を加え、制度の推進を図った。
24年度	4	同上	5	同上
25年度	4	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成25年8月の生活保護基準改正前の基準により援助を行っているが、受給者は減少傾向にある。	施策の題	特に課題はないが、社会情勢等の変化により年度ごとに受給者数が増減する。
総合評価(方向性)	家庭環境により、教育を受けられない子どもが出ないよう、引き続き就学援助を行っていく必要がある。		

(2)義務教育内容の充実 施策⑩ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	就学援助費の支給	76,534	84,350	83,395	78,433	【H23以降】クラブ活動費・生徒会費・PTA会費を支給することとした。
合 計		76,534	84,350	83,395	78,433	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	就学援助受給者数	人	999	1,004	974	914	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(3)特別支援教育の充実	担当課	管理課
施策	① 特別支援学級、通級指導学級における自立支援を充実させるため、個別指導計画、個別支援計画を整備します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	特別支援教育学習支援員数		学習支援員の人数			
数値2	生活介助員派遣対象数		肢体不自由等生活介助を必要とする児童生徒数			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	15	21	23	26	H25 2名分は緊急雇用
	基準年度比(%)		40.0	53.3	73.3	
数値2	人	3	2	3	4	
	基準年度比(%)		△ 33.3	0.0	33.3	

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	自立支援法の下、普通学校に通学する特別支援を必要とする児童生徒数は増加傾向にある。今後さらに支援を必要とする児童生徒は増加すると思われる。	5	通常学級における特別な支援を要する児童生徒に対して、学習活動や学校生活上において支援を行っている。また、平成23年度から、肢体不自由及び病弱学級在籍児童生徒のうち、特に介護が必要なものに対して生活介助員を派遣した。
24年度	4	同上	5	同上
25年度	4	障害者総合支援法の下、普通学校に通学する特別支援を必要とする児童生徒数は増加傾向にある。今後さらに支援を必要とする児童生徒は増加すると思われる。	5	上記に加え、平成25年度から複式学校に複式教育支援員を配置し複式学級の指導補助を行った。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	学習支援員については、小中学校からの要望により平成25年度は3人を増員している。 生活介助員については、肢体不自由等の障がいがある児童生徒の学校生活を介助するために3校に4名が配置されている。	施策の課題	施策に課題等はなく、今後も現施策により推進する。
総合評価(方向性)	特別支援を必要とする児童生徒が増えているため、特別支援学級、通級指導学級の体制・内容の充実を検討しながら施策の推進を図る必要がある。		

**(3)特別支援教育の充実 施策① - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	特別支援教育学習支援員	13,283	19,046	20,498	22,001	【H25】2名分は緊急雇用で支出
2	生活介助員委託		1,923	3,251	4,316	【H23】委託事業は23年度より開始
3	特別支援教育校内委員会及びコーディネーター					【】
4	個別指導計画、個別支援計画の整備					【】
合 計		13,283	20,969	23,749	26,317	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	学習支援員人数	人	15	21	23	26	【】
2	生活介助対象児童生徒	人	3	2	3	4	【】
3	特別支援教育校内委員会及びコーディネーター	校	19	19	19	19	【】
4	個別指導計画、個別支援計画の整備	人	123	127	131	148	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
2	2	3	2	3	2	3		
3	2	3	2	3	2	3		
4	2	3	2	3	2	3	達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		

施策区分	(3)特別支援教育の充実	担当課	管理課
施策	② 障がいのある児童生徒が自立して社会参加ができるよう、適正な指導を進めます。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	特別支援学級及び言語通級指導教室設置数		町内小・中学校における特別支援学級数及びことばの教室の合計数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	教室	58	57	56	55	
	基準年度比(%)		△ 1.7	△ 3.4	△ 5.2	
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	自立支援法の下、普通学校に通学する特別支援を必要とする児童生徒数は増加傾向にある。今後さらに支援を必要とする児童生徒は増加すると思われる。	5	障がい種別による学級編成を基に、「個別の教育計画」や「個別の指導計画」を立て、それに基づいた支援や指導を行っている。
24年度	4	同上	5	同上
25年度	4	障害者総合支援法の下、普通学校に通学する特別支援を必要とする児童生徒数は増加傾向にある。今後さらに支援を必要とする児童生徒は増加すると思われる。	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	支援を要する児童生徒の実態に即して設置している。	施策の課題	施策に課題等はなく、今後も現施策により推進する。
総合評価(方向性)	障がいがある児童生徒の状況等に合わせ、指導内容を検討しながら引き続き支援を行っていく必要がある。		



(3)特別支援教育の充実 施策② - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	特別支援学級及び言語障がい通級指導教室の設置					【】
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	特別支援学級及び言語障がい通級指導教室の設置数	学級	58	57	56	55	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3	2	3	2	3		3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
								2	貢献している(施策を推進する事務事業)
								1	貢献していない。
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

達成度	施策に対する事務事業の達成度	
	3	2
	3	順調に進んでいる(80~100%)
	2	ある程度進んでいる(50~79%)
	1	遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(3)特別支援教育の充実	担当課	管理課
施策	③ 教育機器、訓練機器の整備、充実をはかります。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	特別支援学級用備品購入費		一般教材備品以外で特に特別支援学級用として整備した備品額			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	407	94	115	677	22年度については、今まで支援学級の設置が一度もない学校に対し整備したため額が大きかった。
		基準年度比(%)	△ 76.9	△ 71.7	66.3	
数値2						
		基準年度比(%)				

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	自立支援法の下、普通学校に通学する特別支援を必要とする児童生徒数は増加傾向にある。今後さらに支援を必要とする児童生徒は増加すると思われる。	5	障がい種別による学級編成を基に、「個別の教育計画」や「個別の指導計画」を立て、それに基づいた支援や指導を行っている。
24年度	4	同上	5	同上
25年度	4	障害者総合支援法の下、普通学校に通学する特別支援を必要とする児童生徒数は増加傾向にある。今後さらに支援を必要とする児童生徒は増加すると思われる。	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	特別支援学級の備品については、平成25年度に、難聴学級用の高額な備品の購入により増額となるなど、児童・生徒の特性や障がい区分により必要となる物品が異なる。	施策の課題	施策に課題等はなく、今後も現施策により推進する。
総合評価(方向性)	特別支援を必要とする児童生徒がより良い教育を受けられるよう、現場の要望意見を取り入れながら備品購入等を行っていく必要がある。		

(3)特別支援教育の充実 施策③ - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	特別支援学級開設備品整備	407	94	115	677	【】新設学級と重複
合 計		407	94	115	677	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	特別支援学級開設備品整備	個	23	16	3	20	【】新設学級と重複

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3			3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00					

1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町には、道立音更高等学校と私立の帯広大谷短期大学があります。
- 道立音更高等学校は、全日制普通科と定時制農業科があり、平成11年に校舎の改築および農業教育施設の整備が行われ、生涯学習の推進など地域社会と連携した教育活動が展開されています。町内の高校進学者の希望を満すため、現状の間口維持を引き続き要請していくことが必要です。
- 帯広大谷短期大学は、平成11年より男女共学となり、また、地域文化振興の担い手として地域社会と連携した生涯学習の推進などに取り組んでいます。将来構想として4年制大学化をめざす検討がされていましたが、現段階では具体的な進展がない状況にあります。今後も地域社会と連携した地域文化振興の担い手として、さらには国際化や高齢社会に対応した指導的役割を担う拠点としての充実が求められています。
- 少子化に伴う学生数の減少は、高等教育機関の運営などに影響を与えることが懸念されています。高等教育機関は、教育、研究を通じて、人材の育成、学習機会の提供、地域産業の振興など、地域の知的拠点として大きな役割を果たすことが期待されており、産学官の推進はもとより地域文化の振興をはかるためにも整備、拡充が必要です。

2 計画策定時の「めざす方向」

- 高校教育については、地域に根ざした高等学校づくりを進めるように支援します。
- 高等教育については、地域の知的拠点となるよう、地域社会との連携と交流をさらに深めます。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

高校教育については、音更高校中間定時制農業科が平成27年度から募集停止となるが、普通科は単位制へと移行し、学級数と定員が維持された。高等教育は、帯広大谷短期大学OOJCオープンカレッジの受講者が減少しているが、継続して実施している。高等教育機関の整備充実については、十勝圏活性化推進期成会を通じて、関係機関への要請活動を行っている。

(2)残されている課題等

現施策を推進するも、高校教育については、基幹産業である農業を学ぶ場の確保、間口の維持に向けた取組の継続実施が必要であり、OOJCオープンカレッジについては、新たな受講者を取り込む策を検討する必要がある。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	3.80	分野全体の達成状況	C	A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49) C 計画を下回っている(3.00～3.99) D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)
------------	------	-----------	---	--

5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策						
施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記号	
施策						
所管課						
(1) 高校教育の継続に向けた支援						
① 地域活力の向上のため、音更高等学校の間口維持、施設整備の充実などを要請します。						
教委管理	4	4	4	少子化が進む中で、地域の高等学校等と連携を図りながら、間口維持、施設整備の充実を要請していき地域活力の向上を図る必要がある。	①-1	
② 時代の変化に対応する音更高等学校農業科の充実と継続を要請します。						
教委管理	4	4	2	農業科の募集停止が決定したが、音更町の基幹産業である農業について学べるよう農業系科目の充実等を要請していく必要がある。	②-1	
③ 経済的に恵まれない高校生の就学を支援するため、町の奨学金制度を継続します。						
教委管理	5	5	5	町の奨学金について、町民が高等教育を受けられるよう引き続き支援を継続し、周知等を図っていく必要がある。	③-1	
(2) 高校教育、高等教育の充実						
★ ① 地域に開かれた高校や大学をめざし、町民を対象とした各種開放講座等の開催などを協働で進めます。						
教委生涯	4	4	4	生涯学習によるまちづくりの実現のため、引き続き町・町民・関係機関が一体となり連携を深め、町民に学習機会を提供する必要がある。OOJCオープンカレッジ及び高校開放講座の受講生が減少しているため、周知方法等検討し参加者の拡大に努める必要がある。	①-1	
② 高等教育の充実をめざし、帯広畜産大学、帯広大谷短期大学、北海道立農業大学校の施設や機能などの整備、充実を関係機関に要請します。						
企画	4	4	4	高等教育機関の整備については、将来を担う世代の育成のためにも必要な施策であり、引き続き要請活動を行っていく必要がある。	②-1	
全施策の推進状況の平均値	4.2	4.2	3.8			

6 指標の実績									
(1) 区分									
番号	目標指標名				説明				
1									
(2) 指標の推移									
番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1									
(3) 特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)									
番号	内容								
1									

施策区分	(1)高校教育の継続に向けた支援	担当課	管理課
施策	① 地域活力の向上のため、音更高等学校の間口維持、施設整備の充実などを要請します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	普通科1学年当たりの学級数		普通科4学級160名			
数値2	昼間定時制1学年当たりの学級数		1学級40名			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	学級数	4	4	4	4	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	
数値2	学級数	1	1	1	1	平成27年度は募集停止となることが決定した。
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	道立高校の再編の議論がなされており、間口維持に向けた取り組みが必要である。	4	道立校の再編に関する結論が得られていないため、情報収集を行う必要がある。
24年度	4	同上	4	同上
25年度	4	平成27年度から音更高等学校の昼間定時制農業科が募集停止となったことから、引き続き間口維持の取り組みが必要である。	4	昼間定時制は募集停止となるが、平成27年度から普通科単位制へ移行することとなり、普通科の間口は維持された。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成27年度から昼間定時制農業科は募集停止となるが、普通科は単位制へ移行し学級数と定員が維持された。	施策の題	少子化の傾向にあるため、間口の維持に向けた取り組みを継続していく必要がある。
総合評価(方向性)	少子化が進む中で、地域の高等学校等と連携を図りながら、間口維持、施設整備の充実を要請していく地域活力の向上を図る必要がある。		



施策区分	(1)高校教育の継続に向けた支援	担当課	管理課
施策	② 時代の変化に対応する音更高等学校農業科の充実と継続を要請します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	昼間定時制1学年当たりの学級数		1学級40名			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	学級数	1	1	1	1	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	地域に根ざした活動を行っており、今後も農業科の充実が必要である。	4	道立高校の再編の議論がなされており、今後の経過を確認する必要がある。
24年度	4	同上	4	同上
25年度	1	平成27年度から昼間定時制農業科は募集停止となった。	2	今後は、農業科の施設等を活用して普通科単位制の中で行われる農業系科目の充実と継続を求めていく。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成27年度からの昼間定時制農業科は募集停止となること決定した。	施策の題	時代の変化に対応して、普通科単位制の中で行われる農業系科目の充実を求めていく必要がある。
総合評価(方向性)	農業科の募集停止が決定したが、音更町の基幹産業である農業について学べるよう農業系科目の充実等を要請していく必要がある。		





施策区分	(1)高校教育の継続に向けた支援	担当課	管理課
施策	③ 経済的に恵まれない高校生の就学を支援するため、町の奨学金制度を継続します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	奨学金支給人数				奨学資金を支給する人数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	90	87	87	86	公立と私立で支給単価が違うため、支給人数が変わる。
		基準年度比(%)	△ 3.3	△ 3.3	△ 4.4	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	4	経済的理由により就学困難な高校生への援助は今後も必要であり、今後状況を判断しながら、更なる推進が求められることもあり得る。		5	経済的理由により就学困難な高校生に奨学資金を支給している。	
24年度	4	同上		5	同上	
25年度	4	同上		5	同上	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成25年度については、公立高校59人、私立高校27人の合計86人に支給している。	施策の題	特に課題はなく、現施策を推進する。
総合評価(方向性)	町の奨学金について、町民が高等教育を受けられるよう引き続き支援を継続し、周知等を図っていく必要がある。		

**(1) 高校教育の継続に向けた支援**      **施策③ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	奨学資金の給付	7,815	7,710	7,736	7,733	【】
合 計		7,815	7,710	7,736	7,733	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	奨学金支給人数	人	90	87	87	86	公立と私立で支給単価が異なるため、支給人数が変わる。

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度			
1	2	3	2	3	2	3	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3	順調に進んでいる(80~100%)
								2	ある程度進んでいる(50~79%)
								1	遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

施策区分	(2)高校教育、高等教育の充実	担当課	生涯学習課
施策	① 地域に開かれた高校や大学をめざし、町民を対象とした各種開放講座等の開催などを協働で進めます。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	00JCオープンカレッジの受講者数		帯広大谷短期大学と共同で実施している生涯学習プログラム「00JCオープンカレッジ」の延べ受講者数			
数値2	高校開放講座の受講者数		音更高校と共同で実施している生涯学習プログラム「高校開放講座」の延べ受講者数			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	626.0	682.0	647.0	515.0	【H23】00JCオープンカレッジ54回 【H24】00JCオープンカレッジ63回
	基準年度比(%)		8.9	3.4	△ 17.7	【H25】00JCオープンカレッジ51回
数値2	人	566	326	380	306	【H23】高校開放講座84回 【H24】高校開放講座106回
	基準年度比(%)		△ 42.4	△ 32.9	△ 45.9	【H25】高校開放講座106回

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	5	町民が生涯にわたり、いつでも、どこでも、誰でも自由に学習機会を選択し、学べる場を提供するため、必要な施策である。		4	道民カレッジと連携して開催することにより、学習意欲が向上し、多くの方が受講している。
24年度	5	同上		4	生涯学習プログラムの実施により、学習意欲が向上し、多くの方が受講しているが、回数増による一層の施策推進を図った。
25年度	5	同上		4	全体的に受講者数が減少しているため、新たな受講者の取り込み方策を検討する必要がある。
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成24年度の00JCオープンカレッジは記念事業等により講座数を増やした経過があるが、25年度についてはほぼ例年通りの実施回数となった。新たな内容の講座を組み入れる等の方策は実施しているが受講者の増加には結びつかなかった。	施策の題	今後も現施策による推進が必要であるが、講座の内容及び周知の方法など工夫が必要である。
総合評価(方向性)	生涯学習によるまちづくりの実現のため、引き続き町・町民・関係機関が一体となり連携を深め、町民に学習機会を提供する必要がある。00JCオープンカレッジ及び高校開放講座の受講生が減少しているため、周知方法等検討し参加者の拡大に努める必要がある。		

(2) 高校教育、高等教育の充実 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	OOJCオープンカレッジ事業	800	511	580	316	【】
2	高校開放講座事業	271	171	151	121	【】
合 計		1,071	682	731	437	

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	OOJCオープンカレッジの開催	回	56	54	63	51	【】
2	高校開放講座の開催	回	75	84	106	106	【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
								3	2
								2	1
								1	
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

施策区分	(2)高校教育、高等教育の充実	担当課	企画課
施策	高等教育の充実をめざし、帯広畜産大学、帯広大谷短期大学、北海道②立農業大学校の施設や機能などの整備、充実を関係機関に要請します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	十勝圏活性化推進期成会での要請		関係機関への要請回数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	回	3	3	4	0	
	基準年度比(%)		0.0	33.3	△ 100.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	大学などの高等教育機関は、教育・研究を通じて、人材の育成、学習機会の提供、地域産業の振興など、地域の知的拠点として、大きな役割を果たしており、整備拡充は必要である。	4	国等の関係機関に対し3回の要請を行った。
24年度	3	前年度と同様に地域の知的拠点として高等教育機関の充実を図るため、施策を推進する必要がある。	4	国等の関係機関に対し4回の要請を行った。
25年度	3	同上	4	前年度と同様に国等の関係機関に対し4回の要請を行った。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	高等教育機関の整備充実については、これまで十勝圏活性化推進期成会等を通じて関係機関に要請活動を行っている。	施策の課題	施策に課題等はなく、今後も現施策による推進が必要である。
総合評価(方向性)	高等教育機関の整備については、将来を担う世代の育成のためにも必要な施策であり、引き続き要請活動を行っていく必要がある。		

**(2) 高校教育、高等教育の充実**      **施策② - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	十勝圏活性化推進期成会での要請(高等教育)					【】
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	関係機関への要請回数	回	3	3	4	4	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
							達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		

### 第3章 心豊かな人を育むまち

#### 第1節 子どもの教育

#### 分野(評価項目) 4 青少年健全育成

総合計画  
参照ページ

P. 75

##### 1 計画策定時の「現状と課題」

- 青少年を取り巻く環境が大きく変化するなか、本町は、家庭、学校、地域が連携しながら、体験学習、社会参加活動、子ども会をはじめとする少年団体活動などを通じて、青少年の健全育成に取り組んでいます。
- 青少年を取り巻く現在の社会・生活環境は、必ずしも恵まれたものとはいえ、物質的な豊かさや生活面での便利さが増した反面、人間関係が希薄化し、非行への誘惑など青少年の健全育成に好ましくない状況もあります。
- 青少年を心身ともに健やかに育むためには、近年、社会的な問題となっている家庭や地域の教育力の低下に対応することが重要であり、家庭、学校、地域との連携を強化しながらそれぞれが特色を發揮し、協働によるより良い環境づくりを進める必要があります。

##### 2 計画策定時の「めざす方向」

- 自主、自立の気概にあふれ、規範意識が高く、豊かな思いやりの心と夢を持った青少年を育てるために、家庭、学校、地域との連携を深めながら、地域ぐるみで青少年の健全育成に努めます。

##### 3 推進状況

###### (1)これまでの主な取り組みと成果

学校やPTAなどが青少年健全育成会会員として活動することにより、教育上の課題などを把握するほか、広報紙の発行や巡視など、継続的な活動を推進している。また、青少年指導員の設置による相談業務体制の推進、関係機関との連携に努めている。非行防止策については、関係機関との連携を密にし、注意喚起により未然に防ぐ体制を推進している。青少年の社会参加については、こども会リーダー研修会の実施、竹の子こども会がボランティア活動を行うなど、地域こども会活動の活発化により推進している。

###### (2)残されている課題等

現施策を推進し、青少年育成を推進するとともに、こども会活動を支援し、青少年の社会参加を促進する。

##### 4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	5.00	分野全体の達成状況	A	A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49) C 計画を下回っている(3.00～3.99) D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)
------------	------	-----------	---	--



5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策						
施策区分	H23	H24	H25	総合評価	実施 参記	策 照号
施策						
所管課						
(1) 青少年育成の推進体制、環境づくり						
★	① 地域ぐるみでの青少年の健全育成をめざし、広報活動を通じて町民の積極的な協力を促進します。					
教委生涯	5	5	5	青少年を心身ともに健やかに育むため、引き続き町と町民の情報共有に努め、町民との協働や関係機関との連携により、地域ぐるみでの取組を進めていく必要がある。	①-1	
② 家庭教育に関する意識啓発や情報提供に努め、相談体制を充実させます。						
教委生涯	5	5	5	子どもの抱える問題が多様化している中で、関係機関と連携しながら、家庭教育に関する情報提供や、青少年指導員による相談体制などを充実する必要がある。	②-1	
③ 家庭、学校、地域との連携を深め、地域の青少年育成組織の充実をはかります。						
教委生涯	5	5	5	関係機関との連携を密にし、地域で青少年育成が図れるよう引き続き施策の推進を図る。	③-1	
④ 有害図書・広告の追放など社会環境の浄化に努めます。						
教委生涯	5	5	5	有害環境の浄化や、飛行の未然防止のため、現施策を推進する必要がある。	④-1	
⑤ 青少年の非行を防止するため、通報・相談体制の充実をはかります。						
教委生涯	5	5	5	青少年の非行防止のため、地域と連携しながら、施策を推進していく必要がある。	⑤-1	
⑥ 青少年等の集団研修施設など、関連施設の計画的な改修を進めます。						
教委生涯	5	5	5	青少年の健全育成のために、研修施設等の充実を計画的に進める必要がある。	⑥-1	
(2) 青少年の社会参加の促進						
① 体験学習への参加を促進します。						
教委生涯	5	5	5	子ども会リーダー研修会を通して施策の推進が図られている。今後は、他の体験学習等も検討していく必要がある。	①-1	
② 親子で参加できる活動として、ボランティア活動や地域清掃活動などへの積極的な参加を進めます。						
教委生涯	5	5	5	親子でボランティア活動や清掃活動に積極的に参加してもらえるよう、関係機関と連携しながら周知等を検討し、施策の推進を図る必要がある。	②-1	
③ 青少年が活動する団体や組織を支援するとともに、少子化に対応した組織の編成を検討します。						
教委生涯	5	5	5	青少年が活動できる団体やその会員が増えるよう、周知や方策を検討しながら施策を推進する必要がある。	③-1	
全施策の推進状況の平均値	5	5	5			

## 6 指標の実績

### (1)区分

番号	目標指標名	説明
1	「教育・スポーツ・文化・国際交流などについて」の「青少年の健全育成」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
2	青少年教育事業の参加者数	青少年教育事業の参加者数(年間)
3	不審者の通報件数	青少年に対する不審者に関する通報件数(年間)
4	青少年相談件数	青少年の家庭生活における相談件数(年間)
5		
6		

### (2)指標の推移

番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1	%	83.6	H20	82.3	86.3	84.4	85.0	H27	99.3
2	人	695	H21	705	705	675	750	H26	90.0
3	件	19	H21	9	15	6	17	H26	35.3
4	件	2	H21	9	7	2	5	H26	40.0
5									
6									

### (3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)

番号	内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	

施策区分	(1)青少年育成の推進体制、環境づくり	担当課	生涯学習課
施策	① 地域ぐるみでの青少年の健全育成をめざし、広報活動を通じて町民の積極的な協力を促進します。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	青少年健全育成会会員数				学校、PTA、町内会、地区指導員、各団体役員などの構成人数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	203	207	200	200	
		基準年度比(%)	2.0	△ 1.5	△ 1.5	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	5	青少年の健全育成と安全確保には、お互いの情報を交換し、敏速に、そして的確な取組が必要である。		5	日常活動における問題点を整理し、お知らせやお願いの形で教育上の課題や複雑な環境の中で育つ子どもの理解を深め、広報啓発に努める。	
24年度	5	青少年の健全な育成のためには、地域、家庭、学校相互間での地域ぐるみの連携・協力が重要であり、情報の共有化を図るため必要な施策である。		5	前年度と同様に青少年だよりの発行により広報活動を行っており、青少年健全育成会会員数はほぼ横ばいとなっている。	
25年度	5	同上		5	青少年だよりの発行や標語コンクール、巡視活動を実施している。青少年健全育成会会員数は前年同数となっている。	
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	学校やPTA、町内会、地区指導員、青少年指導員などが青少年健全育成会会員として活動することにより、教育上の課題等を把握し、広報紙の発行や巡視活動を推進することができた。	施策の課題	施策に課題等はなく、今後も現施策により推進する。
総合評価(方向性)	青少年を心身ともに健やかに育むため、引き続き町と町民の情報共有に努め、町民との協働や関係機関との連携により、地域ぐるみでの取組を進めていく必要がある。		



施策区分	(1)青少年育成の推進体制、環境づくり	担当課	生涯学習課
施策	② 家庭教育に関する意識啓発や情報提供に努め、相談体制を充実させます。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	青少年指導員の設置		相談業務などを行う指導員の人数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	2	2	2	2	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	啓発・巡視活動を通して、関係機関と連携を図り、相談業務を推進する必要がある。	5	相談者に配慮しながら関係機関とも連携を図り、解決策を導きながら非行の未然防止など抑止効果が表れている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	相談件数は減少傾向にあるが、直通電話相談や来所相談にも応じ、相談者の立場になって考えるものとしている。また、ケースによっては、関係機関との連携や相談機関の紹介に対応している。	施策の課題	青少年の健全育成のため、今後も現施策を推進する必要がある。
総合評価(方向性)	子どもの抱える問題が多様化している中で、関係機関と連携しながら、家庭教育に関する情報提供や、青少年指導員による相談体制などを充実する必要がある。		



施策区分	(1)青少年育成の推進体制、環境づくり	担当課	生涯学習課
施策	③ 家庭、学校、地域との連携を深め、地域の青少年育成組織の充実をはかります。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	地区青少年健全育成連絡協議会会員数		育成連絡協議会に加入している各地区のPTA会員数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	戸	4,020	4,069	4,045	4,011	
		基準年度比(%)	1.2	0.6	△ 0.2	
数値2						
		基準年度比(%)				

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	青少年健全育成のため、青少年の指導並びに活動を促進し、非行の未然防止に努める必要がある。	5	育成会・学校・保護者・地域が協力し、青少年健全育成のための活動を行っている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	学校・PTA・保護者・地域が連携し、青少年健全育成活動を継続的に推進している。	施策の課題	青少年の健全育成のため、今後も現施策を推進する必要がある。
総合評価(方向性)	関係機関との連携を密にし、地域で青少年育成が図れるよう引き続き施策の推進を図る。		

(1) 青少年育成の推進体制、環境づくり 施策③ - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	地区青少年健全育成連絡協議会補助	400	393	399	400	【23】交付金の執行残金について返還するよう指導し、監査を実施した。
合 計		400	393	399	400	

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	加入PTA会員数	戸	4,020	4,069	4,045	4,011	【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3		3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)



施策区分	(1)青少年育成の推進体制、環境づくり	担当課	生涯学習課
施策	④ 有害図書・広告の追放など社会環境の浄化に努めます。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	青少年指導員の設置		青少年指導員による巡視・指導・啓発回数			
数値2	青少年対策事業		地区指導員による巡視・指導回数			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	回	380	375	394	447	
	基準年度比(%)		△ 1.3	3.7	17.6	
数値2	回	118	129	116	127	
	基準年度比(%)		9.3	△ 1.7	7.6	

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	有害環境の浄化のために、地域住民の関心を得ながら行動していく必要がある。	5	地域の環境浄化に対する意識を高めるとともに、青少年非行に影響があると思われる店舗等への協力依頼を推進した。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	環境浄化活動や非行の未然防止のため、巡視活動による抑止効果や店舗等に協力依頼の申入れを行い、継続的に推進している。	施策の課題	青少年の健全育成のため、今後も現施策を推進する必要がある。
総合評価(方向性)	有害環境の浄化や、飛行の未然防止のため、現施策を推進する必要がある。		

(1) 青少年育成の推進体制、環境づくり 施策④ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、 実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	青少年指導員の設置	2,601	2,607	2,575	2,601	【】
2	青少年対策事業	2,131	4,245	2,510	2,509	【】
合 計		4,732	6,852	5,085	5,110	

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	青少年指導員による巡視回数	回	380	375	394	447	【】
2	地区指導員による巡視回数	回	118	129	116	127	【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
								3	2
								2	1
								1	
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

施策区分	(1)青少年育成の推進体制、環境づくり	担当課	生涯学習課
施策	⑤ 青少年の非行を防止するため、通報・相談体制の充実をはかります。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	青少年指導員の設置		通報業務などを行う指導員の人数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	2	2	2	2	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	非行防止のためには、啓発・巡視活動を通して、関係機関と連携を図り、青少年対策を推進していく必要がある。	5	通報業務を敏速に対応し、関係機関に情報提供することで非行の未然防止など抑止効果が表れている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	通報があり次第、迅速に関係機関等に情報提供することで、注意喚起を促すことを継続的に推進している。	施策の課題	青少年の健全育成のため、今後も現施策を推進する必要がある。
総合評価(方向性)	青少年の非行防止のため、地域と連携しながら、施策を推進していく必要がある。		



施策区分	(1)青少年育成の推進体制、環境づくり	担当課	生涯学習課
施策	⑥ 青少年等の集団研修施設など、関連施設の計画的な改修を進めます。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	集団研修施設利用者数		集団研修施設を利用した人の年間延べ人数			
数値2	集団研修施設利用者数		集団研修施設を利用した人の年間延べ人数			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	9,587	8,626	7,961	7,754	
	基準年度比(%)		△ 10.0	△ 17.0	△ 19.1	
数値2	人	9,587	8,626	7,961	7,754	
	基準年度比(%)		△ 10.0	△ 17.0	△ 19.1	

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	通常の学校生活や家庭生活と異なる生活環境にあって、人間的ふれあいや自然とのふれあいを基本とした学習活動を通し、心身ともに調和のある青少年の育成を図ることが必要である。	5	町内外の児童、生徒及び成人団体など多くの方が利用している。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	利用人数は減少傾向にあるが、稼働率は利用人数の割合ほど大きく減少していないので、今後は同程度の利用人数で推移すると思われる。	施策の課題	平成26年度に施設のトイレを全て洋式化することから利便性は向上すると思われるが、今後も更なる利用促進を図る必要がある。
総合評価(方向性)	青少年の健全育成のために、研修施設等の充実を計画的に進める必要がある。		

(1) 青少年育成の推進体制、環境づくり 施策⑥ - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	集団研修施設補修改修	1,924			5,460	【H25】体育館屋根塗装工事
合 計		1,924			5,460	

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	集団研修施設の利用者数	人	9,587	8,626	7,961	7,754	【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1					2	3		3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
								施策に対する事務事業の達成度
								3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)
平均					2.00	3.00		

施策区分	(2)青少年の社会参加の促進	担当課	生涯学習課
施策	① 体験学習への参加を促進します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	こども会リーダー研修会の参加者				地域子ども会活動を活発にするために行う夏季・冬季リーダー研修会の参加者数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	78	77	51	95	
		基準年度比(%)	△ 1.3	△ 34.6	21.8	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	様々な体験活動を通して心身ともに健全な少年の育成を図ることが必要である。		5	子ども会活動やこども体験隊など、様々な活動により健全な少年の育成がはかられている。
24年度	3	同上		5	同上
25年度	3	同上		5	子ども会単位会間での交流が図られ、参加者増の要員となっている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	参加者数は増減しているが、長期休業中における学校の補充学習との関係から、今後も参加者数は増減するものと思われる。	施策の題	町内の児童が一堂に会して体験学習を行う機会は他になく、今後も参加者数を維持して実施する必要がある。
総合評価(方向性)	子ども会リーダー研修会を通して施策の推進が図られている。今後は、他の体験学習等も検討していく必要がある。		

**(2) 青少年の社会参加の促進**      **施策① - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	少年団体リーダー養成体験学習事業及び青少年体験講座等	112	55	54	84	【】
合 計		112	55	54	84	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	こども会リーダー研修会	回	2	2	2	2	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

達成度

施策に対する事務事業の達成度	
3	順調に進んでいる(80~100%)
2	ある程度進んでいる(50~79%)
1	遅れがある、未着手(50%未満)



施策区分	(2)青少年の社会参加の促進	担当課	生涯学習課
施策	② 親子で参加できる活動として、ボランティア活動や地域清掃活動などへの積極的な参加を進めます。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	音更町竹の子子ども会会員数		音更町竹の子子ども会に加入している児童数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	2,567	2,442	2,325	2,332	
		基準年度比(%)	△ 4.9	△ 9.4	△ 9.2	
数値2						
		基準年度比(%)				

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	子ども会活動を活発にするためのリーダー研修や子ども会相互の交流をはかるための研修、レクリエーション活動を通して心身ともに健全な少年の育成をはかる必要がある。	5	ブロック毎の行事や全体のフェスティバルなど、多くの参加者によって活発に活動が行われている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	様々な事業を通して会員の新規加入を呼びかけており、25年度は若干会員数が増加した。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	会員増の取り組みが功を奏し、減少傾向がストップし会員数が若干増加した。	施策の課題	今後も子ども会活動の見直しや周知方法を検討し、会員増への取り組みが必要である。
総合評価(方向性)	親子でボランティア活動や清掃活動に積極的に参加してもらえるよう、関係機関と連携しながら周知等を検討し、施策の推進を図る必要がある。		

**(2) 青少年の社会参加の促進**      **施策② - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	竹の子子ども会世話人会補助	760	760	760	760	【】
合 計		760	760	760	760	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	子どもフェスティバルの参加人数	人	254	210	199	195	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3		3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
								施策に対する事務事業の達成度
								3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		

施策区分	(2)青少年の社会参加の促進	担当課	生涯学習課
施策	③ 青少年が活動する団体や組織を支援するとともに、少子化に対応した組織の編成を検討します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	青年団の会員数		青年団に加入している会員数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	28	27	27	23	
		基準年度比(%)	△ 3.6	△ 3.6	△ 17.9	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	健康な心身、高度な文化と教養を身につけるための様々な活動を通し、人格形成に努めることが重要である。	5	ボランティア活動や自己研鑽の研修など、本町の発展に寄与しているものと思われる。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	団員数は減少傾向にあるものの、事業内容は例年通り実施している。	施策の課題	異業種の会員加入を検討するなど、団員数の増加を図る必要がある。
総合評価(方向性)	青少年が活動できる団体やその会員が増えるよう、周知や方策を検討しながら施策を推進する必要がある。		

**(2) 青少年の社会参加の促進**      **施策③ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	少年団体リーダー養成体験学習事業及び青少年体験講座等	112	55	54	84	【】
2	青年団補助	180	150	180	180	【】
3	竹の子子ども会世話人会補助	760	760	760	760	【】
合 計		1,052	965	994	1,024	

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	子ども会リーダー研修会	回	2	2	2	2	【】
2	ボランティア活動	回	1	1	2	2	【】
3	子ども会世話人研修会	回	2	2	2	2	【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	3	3	3	3	3	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
2	2	3	2	3	2	3		
3	3	3	3	3	3	3		
							達成度	3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.67	3.00	2.67	3.00	2.67	3.00		

1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町は、町民が生涯を通して自由に学習機会を選択し、学び、その成果が適正に評価される環境をつくるため、社会教育を中心に他の分野も含めて、生涯学習に関連する情報提供や学習機会の提供、町民の主体的な活動の支援などを行っています。また、生涯学習の場として利用している施設の利便性の向上や指導者の発掘、養成などに努めています。
- 今後さらに生涯学習社会づくりを進めていくには、町民と町の連携・協力体制をより一層深め、「生涯学習によるまちづくり」を総合的に進めていくことが課題となっています。関係機関との連携を深め、多様化する町民の生涯学習に対するニーズの把握に努めながら、地域の特性を活かした生涯学習社会の環境整備を進めていくことが必要です。

2 計画策定時の「めざす方向」

- 各関係機関・団体との連携により学習環境の整備に努めるとともに、町民協働の「生涯学習によるまちづくり」を進め、町民が生涯にわたり、いつでも、どこでも、誰でも自由に学習機会を選択し学び、その成果が適切に評価されるような生涯学習社会の実現をめざします。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

生涯学習を推進するため、生涯学習センター、生涯学習推進協議会、生涯学習指導員を設置し、生涯学習の推進を図っている。また、生涯学習リーダーバンク制度により、団体・サークルの要望に応じた講師の派遣を行っており、登録者数も増加している。高齢者大学・大学院により、高齢者の学習機会の整備を図り、継続的に学習できる環境を推進している。

(2)残されている課題等

現施策を通じて、町民の学習ニーズを把握し、バラエティに富んだ学習の機会を提供に努めていく必要がある。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	4.80	分野全体の達成状況	A	A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49) C 計画を下回っている(3.00～3.99) D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)
------------	------	-----------	---	--

5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策						
施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施 策 参 照 記 号	
施策						
所管課						
<b>(1) 推進体制、人材の確保</b>						
① 庁内各課や関連団体、町民の参加による生涯学習推進体制を充実させます。						
教委生涯	5	5	5	生涯学習推進協議会により施策の推進が図られている。今後は、協議会での意見をより事務事業等に活かせるよう検討していく必要がある。	①-1	
★	② リーダーバンク制度などを充実し、登録者の活用、拡大をはかります。					
教委生涯	4	4	4	リーダーバンク制度により豊富な知識や技術を持った方を講師として登録している。引き続き町民の様々なニーズに対応した学習機会を提供するために、更に登録者を拡大していく必要がある。	②-1	
③ 専門的知識を持つ人材を発掘し、生涯学習の指導・サポート体制を充実させます。						
教委生涯	5	5	5	人材の発掘及び登録は、制度の周知や学習機会の提供を通して行われるため、より多くの人に参加したくなるよう検討しながら施策の推進を図る必要がある。	③-1	
④ 生涯学習ボランティアの養成に努めます。						
教委生涯	5	5	5	受講生の増加に努めるとともに、受講生に対して生涯学習ボランティアに関する情報提供を行い施策を推進する必要がある。	④-1	
⑤ より多様なテーマで学べるよう、民間の社会教育事業と連携し、学習機会の提供に努めます。						
教委生涯	5	5	5	今後も帯広大谷短期大学を中心として、各種団体と連携しながら学習機会の提供に努める必要がある。	⑤-1	
<b>(2) 情報の提供、相談の充実</b>						
① 生涯学習に関わる学習情報を広く周知し、学習機会の提供に努めます。						
教委生涯	5	5	5	広報、ホームページだけでなく、対象によって周知方法を変えるなど、周知について検討しながら施策の推進を図る必要がある。	①-1	
② 生涯学習への理解や参加を促進するため、相談体制の充実をはかります。						
教委生涯	5	5	5	リーダーバンク制度についての周知方法等を検討し、より活用が図られるよう努め、相談体制の充実を図る必要がある。	②-1	
③ 関係機関との連携を深め、共有する情報の活用に努めます。						
教委生涯	5	5	5	引き続き関係機関との連携を深め、情報共有を図り、町民が情報を得やすいよう努める必要がある。	③-1	
<b>(3) 施設の活用、連携</b>						
★	① 生涯学習の活動拠点として、生涯学習センターの機能の整備、向上に努めます。					
教委生涯	4	4	4	生涯学習センター利用者は増加しており、施策の推進が図られている。引き続き町民の生涯学習の活動拠点、情報発信の場として機能の充実を図るとともに、町民が利用しやすい環境づくりに努める必要がある。	①-1	
② 生涯学習関連施設以外の施設も、生涯学習の場として有効活用します。						
教委生涯	5	5	5	集団研修施設が、より多くの人に有効活用されるよう努めるとともに、他の施設等で有効活用できるものがないかも検討していく必要がある。	②-1	
全施策の推進状況の平均値	4.8	4.8	4.8			

## 6 指標の実績

### (1)区分

番号	目標指標名	説明
1	「教育・スポーツ・文化・国際交流などについて」の「生涯学習の情報や機会の提供」に対する市民の満足度	平成20年まちづくり市民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
2	リーダーバンクの登録者数	指導者のリーダーバンクへの登録者数(累計)
3	学校支援ボランティアの活動参加者数	学校支援ボランティアの活動参加者の年間延べ人数
4	生涯学習講座の参加者数	OOJCオープンカレッジ、高校開放講座などの参加者数(年間)
5	生涯学習フェスティバルの参加者数	生涯学習フェスティバルの参加者数
6	公民館の利用者数	公民館の年間利用者数

### (2)指標の推移

番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1	%	84.4	H20	85.7	83.6	85.3	86.0	H27	99.2
2	件	78	H21	75	81	81	90	H26	90.0
3	人	1,793	H21	0	0	0	1,850	H26	0.0
4	人	1,895	H21	2,038	2,027	1,261	1,900	H26	66.4
5	人	3,480	H21	2,260	2,600	2,550	3,500	H26	72.9
6	人	7,026	H21	6,729	6,344	6,961	7,300	H26	95.4

### (3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)

番号	内容
1	
2	
3	H22事業終了により実績値なし
4	
5	
6	

施策区分	(1)推進体制、人材の確保	担当課	生涯学習課
施策	① 庁内各課や関連団体、町民の参加による生涯学習推進体制を充実させます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	生涯学習推進協議会委員数		音更町生涯学習推進協議会の委員数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	10	10	10	10	
		基準年度比(%)	0.0	0.0	0.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	生涯学習の総合的、効果的な推進を図るため、本町の生涯学習によるまちづくりや人づくりに関する計画や事業等を審議する必要がある。	5	推進基本構想、推進中期計画に基づき、生涯学習が推進されている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	委員は、町内の各種団体から構成されており、会議の際も活発な意見を出している。	施策の課題	施策について課題はなく、現施策を推進する。
総合評価 (方向性)	生涯学習推進協議会により施策の推進が図られている。今後は、協議会での意見をより事務事業等に活かせるよう検討していく必要がある。		



(1) 推進体制、人材の確保 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	生涯学習推進協議会	253	44		37	【】
合 計		253	44		37	

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	生涯学習推進協議会の開催	回	6	1		1	【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度			
1	3	3			3	3	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3	順調に進んでいる(80~100%)
								2	ある程度進んでいる(50~79%)
								1	遅れがある、未着手(50%未満)
平均	3.00	3.00			3.00	3.00			

施策区分	(1)推進体制、人材の確保	担当課	生涯学習課
施策	② リーダーバンク制度などを充実し、登録者の活用、拡大をはかります。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	リーダーバンク登録者数		生涯学習リーダーバンクに登録している人数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	75	78	81	81	【H23】生活分野1人、趣味分野1人、その他分野1人登録者増加。 【H24】一般教養分野2人、芸術文化分野1人登録者増加。
	基準年度比(%)		4.0	8.0	8.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	5	生涯学習リーダーバンクの整備充実のため、指導者の育成と登録を進め、活用を図る必要があり、人材確保のため必要な施策である。		4	各種事業、講座などでリーダーバンク登録者に尽力いただいている。
24年度	5	同上		4	各種事業、講座などでリーダーバンク登録者に尽力いただき、町民の学習機会の向上に寄与している。また、24年度は登録者が22年度に対し6人増加している。
25年度	5	同上		4	各種事業、講座などでリーダーバンク登録者に尽力いただき、町民の学習機会の向上に寄与している。今後は更に登録者を拡大していく必要がある。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	リーダーバンク登録されている生涯学習活動の指導者の方々に団体・サークルの要望に応じて講座等の講師として活動していただくことにより、町民の学習機会の向上に寄与しており、登録者数は若干増加している。	施策の課題	施策に課題等はなく、今後も現施策による推進が必要である。
総合評価(方向性)	リーダーバンク制度により豊富な知識や技術を持った方を講師として登録している。引き続き町民の様々なニーズに対応した学習機会を提供するために、更に登録者を拡大していく必要がある。		

(1) 推進体制、人材の確保 施策② - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	生涯学習リーダーバンク事業					【】
合 計						

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	リーダーバンク登録者	人	75	78	81	81	【H23】生活分野1人、趣味分野1人、その他分野1人登録者増加。

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

施策区分	(1)推進体制、人材の確保	担当課	生涯学習課
施策	③ 専門的知識を持つ人材を発掘し、生涯学習の指導・サポート体制を充実させます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	高齢者大学生の数		高齢者大学に入学している学生数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	62	64	69	69	
		基準年度比(%)	3.2	11.3	11.3	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	高齢者のもつ知識・技術を生かしながら社会参加を促し、指導者としての育成を図る必要がある。	5	高齢者大学・大学院と学習機会の整備が図られ、多くの町民が継続的に学習している。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	高齢者大学生の中には既にリーダーバンク登録者もいるが、大学で学んだ専門的知識を研鑽し、新たな指導者として登録するまでは至っていない。	施策の課題	高齢者大学生に限らず、人材の発掘は必要であるため、情報収集等関係機関との連携を密にする。
総合評価 (方向性)	人材の発掘及び登録は、制度の周知や学習機会の提供を通して行われるため、より多くの人が参加したくなるよう検討しながら施策の推進を図る必要がある。		

(1) 推進体制、人材の確保 施策③ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1) 実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	00JCオープンカレッジ事業	800	511	580	316	【】
2	高校開放講座事業	271	171	151	121	【】
3	学級講座の開設	298	246	366	327	【】
合 計		1,369	928	1,097	764	

(2) 代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	00JCオープンカレッジの開催	回	56	54	63	51	【】
2	高校開放講座の開催	回	75	84	106	106	【】
3	高齢者大学の開催	回	11	11	11	11	【】

(3) 事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
3	3	3	3	3	3	3	3	2	1
								3	2
								2	1
								1	
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

施策に対する事務事業の貢献度  
 3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

施策に対する事務事業の達成度  
 3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(1)推進体制、人材の確保	担当課	生涯学習課
施策	④ 生涯学習ボランティアの養成に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	00JCオープンカレッジの受講者数		帯広大谷短期大学と共同で実施している生涯学習プログラム「00JCオープンカレッジ」の延べ受講者数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	626	682	647	515	
		基準年度比(%)	8.9	3.4	△ 17.7	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	町民が生涯にわたり、いつでも、どこでも、誰でも自由に学習機会を選択し、学べる場を提供し、生涯学習ボランティアの育成に努める必要がある。	5	00JCオープンカレッジと道民カレッジを連携して開催することにより、学習意欲が向上し、多くの方が受講している。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	参加者数は若干減少しているが、様々な学習機会を提供している。	施策の課題	00JC受講生が生涯学習ボランティアとして活躍しているかの確認はできていないが、社会福祉協議会等の団体と連携していくことが必要である。
総合評価(方向性)	受講生の増加に努めるとともに、受講生に対して生涯学習ボランティアに関する情報提供を行い施策を推進する必要がある。		



施策区分	(1)推進体制、人材の確保	担当課	生涯学習課
施策	⑤ より多様なテーマで学べるよう、民間の社会教育事業と連携し、学習機会の提供に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	00JCオープンカレッジの受講者数		帯広大谷短期大学と共同で実施している生涯学習プログラム「00JCオープンカレッジ」の延べ受講者数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	626	682	647	515	
		基準年度比(%)	8.9	3.4	△ 17.7	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	町民が生涯にわたり、いつでも、どこでも、誰でも自由に学習機会を選択し、学べる場を提供する必要がある。	5	00JCオープンカレッジと道民カレッジを連携して開催することにより、学習意欲が向上し、多くの方が受講している。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	参加者数は若干減少しているが、様々な学習機会を提供している。	施策の課題	施策について課題はなく、現施策を推進する。
総合評価(方向性)	今後も帯広大谷短期大学を中心として、各種団体と連携しながら学習機会の提供に努める必要がある。		





施策区分	(2)情報の提供、相談の充実	担当課	生涯学習課
施策	① 生涯学習に関わる学習情報を広く周知し、学習機会の提供に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	生涯学習指導員数		生涯学習指導員の設置人数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	1	1	1	1	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	各種学級講座等の企画運営と生涯学習に関する指導助言及び学習相談・学習情報の提供業務の推進に必要である。	5	高齢者学級等の企画運営及び指導助言等、生涯学習の推進が図られている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	生涯学習指導員を設置し、施策推進に努めている。	施策の課題	町広報紙、ホームページ以外の媒体を利用した周知方法の構築が課題となっている。
総合評価(方向性)	広報、ホームページだけでなく、対象によって周知方法を変えるなど、周知について検討しながら施策の推進を図る必要がある。		

(2)情報の提供、相談の充実 施策① - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、 実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	生涯学習指導員の設置	1,301	1,308	1,288	1,301	【】
2	OOJCオープンカレッジ事業	800	511	580	316	【】
3	高校開放講座事業	271	171	151	121	【】
4	生涯学習フェスティバル事業交付金	275	300	300	300	【】
5	学習情報の提供					【】
合 計		2,647	2,290	2,319	2,038	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	高齢者学級生の人数	人	602	574	544	508	【】
2	OOJCオープンカレッジの受講者数	人	626	682	647	515	【】
3	高校開放講座の受講者数	人	566	326	380	306	【】
4	生涯学習フェスティバルの参加者数	人	3,700	2,260	2,600	2,550	【】
5	町広報紙の「生涯学習の窓」による周知	回	12	12	12	12	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
3	3	3	3	3	3	3	3	2	1
4	2	3	2	3	2	3	3	3	2
5	3	3	3	3	3	3	3	3	2
平均	2.80	3.00	2.80	3.00	2.80	3.00			

達成度

3 順調に進んでいる(80~100%)

2 ある程度進んでいる(50~79%)

1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)情報の提供、相談の充実	担当課	生涯学習課
施策	② 生涯学習への理解や参加を促進するため、相談体制の充実をはかりま す。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	リーダーバンク登録者数				生涯学習リーダーバンクに登録している人数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	75	78	81	81	
		基準年度比(%)	4.0	8.0	8.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	生涯学習リーダーバンクの整備充実のため、指導者の育成と登録を進め、活用を図る必要がある。		5	各種事業、講座などでリーダーバンク登録者に尽力いただいている。
24年度	3	同上		5	各種事業、講座などでリーダーバンク登録者に尽力いただき、町民の学習機会の向上に寄与している。また、24年度は登録者が22年度に対し6人増加している。
25年度	3	同上		5	各種事業、講座などでリーダーバンク登録者に尽力いただき、町民の学習機会の向上に寄与している。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	少しずつであるが、登録者数も増えている。	施策の課題	大きな課題等はないが、リーダーバンクそのものについては、随時の更新作業が必要である。
総合評価(方向性)	リーダーバンク制度についての周知方法等を検討し、より活用が図られるよう努め、相談体制の充実を図る必要がある。		

(2)情報の提供、相談の充実 施策② - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	学習相談体制の整備充実					【】
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	リーダーバンク登録者	人	75	78	81	81	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3		3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
								施策に対する事務事業の達成度
								3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		

施策区分	(2)情報の提供、相談の充実	担当課	生涯学習課
施策	③ 関係機関との連携を深め、共有する情報の活用に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	十勝定住自立圏への参加		十勝定住自立圏の協定締結市町村数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	市町村	19	19	19	19	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	他町村との連携を強化し、情報の共有化を図る必要がある。	5	インターネットを活用した生涯学習施設等の情報提供を行っている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	十勝定住自立圏へ参加することにより、圏域住民へ提供する情報量は確実に増加している。	施策の課題	各市町村限定の情報の扱いなど、今後精査していく必要がある。
総合評価(方向性)	引き続き関係機関との連携を深め、情報共有を図り、町民が情報を得やすいよう努める必要がある。		



施策区分	(3)施設の活用、連携	担当課	生涯学習課
施策	① 生涯学習の活動拠点として、生涯学習センターの機能の整備、向上に努めます。		重点施策

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	生涯学習センターの利用者数		生涯学習センターを利用した人数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	3,233	2,646	3,284	3,541	【H24】大会議室21回1,126人、小会議室12回220人、視聴覚室92回1,504人、郷土資料室434人 【H25】大会議室33回1,372人、小会議室11回170人、視聴覚室79回1,403人、郷土資料室596人
	基準年度比(%)		△ 18.2	1.6	9.5	
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	5	生涯学習の活動拠点として必要な施策であり、生涯学習のセンター機能の整備、充実を図る必要がある。	4	多種多様な講座、会議などに利用されている。
24年度	5	同上	4	多種多様な講座、会議など、会議室等の利用は増加しており、生涯学習の活動拠点として一定程度の利用が図られた。
25年度	5	同上	4	多種多様な講座、会議などに利用され、生涯学習の活動拠点として一定程度の利用が図られた。今後は更に利用者を拡大し機能を充実していく必要がある。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	前年度と比較し、使用する会議室の回数に増減があるものの、利用者数全体で増加している。	施策の課題	施策に課題等はなく、今後も現施策による推進が必要である。
総合評価(方向性)	生涯学習センター利用者は増加しており、施策の推進が図られている。引き続き町民の生涯学習の活動拠点、情報発信の場として機能の充実を図るとともに、町民が利用しやすい環境づくりに努める必要がある。		



(3)施設の活用、連携 施策① - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)	
		22年度 (参考)	23年度	24年度		25年度
1	改善センター整備		2,951			【】
2	センター機能の活用					【】
合 計			2,951			

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	整備箇所数	箇所		1			【H23】屋上防水工事
2	センター利用者数	人	3,233	2,646	3,284	3,541	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3		3		3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
2	3	3	3	3	3	3			
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

施策区分	(3)施設の活用、連携	担当課	生涯学習課
施策	② 生涯学習関連施設以外の施設も、生涯学習の場として有効活用します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	集団研修施設利用者数		集団研修施設を利用した人の年間延べ人数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	9,587	8,626	7,961	7,754	
		基準年度比(%)	△ 10.0	△ 17.0	△ 19.1	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	旧小学校としての特色を生かし、施設活用の充実を図る必要がある。	5	町内外の児童、生徒及び成人団体など多くの方が利用している。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	スポーツ合宿や吹奏楽練習・陶芸など、町内外の幅広い年代が多種多様に利用している。	施策の課題	特別課題はないが、施設及び設備の老朽化に伴う修繕等が必要である。
総合評価(方向性)	集団研修施設が、より多くの人に有効活用されるよう努めるとともに、他の施設等で有効活用できるものがないかも検討していく必要がある。		

(3)施設の活用、連携      施策② - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	各施設の利用向上					【】
2	生涯学習施設としての有効活用施設					【】
合 計						

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	公民館の利用者数	人	6,364	6,729	6,344	6,961	【】
2	生涯学習センターの利用者数	人	3,233	2,646	3,284	3,541	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3	2	3	2	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	施策に対する事務事業の達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
2	3	3	3	3	3	3			
							達成度		
平均	2.50	3.00	2.50	3.00	2.50	3.00			

1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町は、「社会教育中期計画」に基づき、各世代で求められている学習ニーズに応える学習機会の提供、活動の支援に努めています。また、広報活動や関係機関・団体などへの資料配布による情報提供に努めるとともに、生涯学習リーダーバンクの活用、職員の各種研修会への派遣、各種団体指導者の研修参加の奨励などにより、指導体制の資質向上に努めています。
- 今後も、生涯学習の観点から、有志指導者を含めた指導体制や教育内容を充実させるとともに、学習情報の提供、相談体制の整備、既存施設の機能充実などを進めていくことが必要です。

2 計画策定時の「めざす方向」

- 生涯学習の観点から、地域に根ざした社会教育を計画的に進めるため、学習ニーズをふまえながら推進体制や関連施設を充実させるとともに、町民の社会教育活動を促進します。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

社会教育の場として、高齢者学級、高齢者大学・大学院に加え、女性ライフスクールを開講し、女性の生活上の課題について学習し、地域社会に貢献する組織として活躍している。また、学校を中心に家庭教育学級を開催し、家庭教育に関する学習活動の促進が図られている。図書館の充実については、蔵書冊数が町民1人当たり4冊を達成し、新鮮な資料・情報を提供している。

(2)残されている課題等

数多くの学びの場を提供するとともに、学んでみたいと思わせるような教育・学習環境の推進が求められている。また、中高生に図書館を利用してもらう事業の展開が課題となっている。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	5.00	分野全体の達成状況	A	A 計画どおり進んでいる(4.50~5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00~4.49) C 計画を下回っている(3.00~3.99) D 大幅に計画を下回っている(0~2.99)
------------	------	-----------	---	--

5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策					
施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記号
施策					
所管課					
(1)学習機会の拡充、活動の支援					
★ ① 青少年のたくましい精神と身体の育成をはかるため、子どもの居場所づくり、主体的な学習や活動を支援します。					
教委生涯	5	5	5	子ども会リーダー研修会の参加者は増加しており、施策の推進が図られている。子ども会活動や体験活動等は青少年にとって身体・精神の両面から成長に寄与するとともに仲間づくりの場としても重要であることから、引き続き取組を進める必要がある。	①-1
② 成人の生きがいがづくり、心の豊かさや充実感を求める学習ニーズなどに対応するため、成人教育に関する学習活動を促進します。					
教委生涯	5	5	5	成人教育に関する学習機会を提供するために、周知方法等も検討していく必要がある。	②-1
③ 青少年の健全育成や親の教育を充実させるため、家庭教育に関する学習活動を促進します。					
教委生涯	5	5	5	青少年の健全育成のためには、家庭教育の充実が重要であるため、学習機会の充実を図る必要がある。	③-1
④ 高齢者をはじめ町民が地域社会に貢献する場を増やすため、世代間交流や社会参加活動を促進します。					
教委生涯	5	5	5	高齢者大学により施策の推進が図られている。学んだことを活かせる環境づくりについても検討していく必要がある。	④-1
⑤ 町民の学習ニーズをふまえながら、充実した学習機会を設定します。					
教委生涯	5	5	5	高齢者学級により、高齢者のニーズに応じた学習機会は提供されている。今後は、高齢者以外の町民が求める学習機会がどのようなものか把握し、それに応じた学習機会の提供が必要である。	⑤-1
⑥ 町内の各団体やサークルへの参加を促すとともに、自主的な活動を支援します。					
教委生涯	5	5	5	町内の団体等を把握し、その周知方法を検討しながら、団体そのものの支援も引き続き実施していく必要がある。	⑥-1
(2)図書館の充実					
① 学習情報を適切に提供できるように整備を進めるとともに、学習相談体制の充実をはかります。					
図書館	5	5	5	図書館の蔵書を内容を含め計画的に整備し、引き続き町民の学習を支援するとともに、図書館での学習相談体制についても検討していく必要がある。	①-1
★ ② 図書館活動の拡充に積極的に取り組み、蔵書の整備を計画的に進めます。					
図書館	5	5	5	計画的な蔵書整備により、目標とした蔵書冊数を達成した。今後は図書の新陳代謝を図りながら、多くの町民が利用しやすい図書館の環境整備のため、町民のニーズに合わせた資料等の提供と図書館活動の充実に努める必要がある。	②-1
全施策の推進状況の平均値	5	5	5		

## 6 指標の実績

### (1)区分

番号	目標指標名	説明
1	郷土資料室の利用者数	郷土資料室の年間利用者数
2	社会教育事業の参加者数	幼児家庭教育学級、高齢者学級、公民館講座などの参加者数(年間)
3	図書館利用者数	図書館の貸出延べ人数(年間)
4	年間1人当たり貸出冊数	住民1人当たり貸出冊数(年間)
5		
6		

### (2)指標の推移

番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比 (ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1	人	450	H21	786	434	596	600	H26	99.3
2	人	946	H21	861	816	749	1,000	H26	74.9
3	人	65,212	H21	61,900	58,794	58,809	66,500	H26	88.4
4	冊	6.4	H21	6.2	6	6	6.6	H26	90.9
5									
6									

### (3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)

番号	内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	

施策区分	(1)学習機会の拡充、活動の支援	担当課	生涯学習課
施策	① 青少年のたくましい精神と身体の育成をはかるため、子どもの居場所づくり、主体的な学習や活動を支援します。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	こども会リーダー研修会の参加者				地域子ども会活動を活発にするために行う夏季・冬季リーダー研修会の参加者数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	78	77	51	95	
		基準年度比(%)	△ 1.3	△ 34.6	21.8	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	5	様々な体験活動などを通して心身ともに健全な青少年の育成を図るため必要な施策である。		5	子ども会活動やこども体験隊など、様々な活動により健全な少年の育成が図られている。	
24年度	5	同上		5	子ども会活動やこども体験隊など、様々な活動により健全な少年の育成を図っているが、こども会リーダー研修会参加者数は減少傾向にある。	
25年度	5	同上		5	子ども会活動やこども体験隊など、様々な活動への参加を広く呼びかけ、こども会リーダー研修会参加者数は増加した。	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	地域の子ども会活動を活発化するため年2回リーダー研修会を開催している。また、熟年先生講座等を開催し、主体的な学習や活動の支援を行っているが、両事業とも長期休業中の実施であり、学校の補充学習との関係から参加者は増減している。	施策の課題	課題は特になくはないものと考えているが、子どもの居場所づくりのため今後も多くの参加を呼びかける必要がある。
総合評価(方向性)	こども会リーダー研修会の参加者は増加しており、施策の推進が図られている。子ども会活動や体験活動等は青少年にとって身体・精神の両面から成長に寄与するとともに仲間づくりの場としても重要であることから、引き続き取組を進める必要がある。		

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、 実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	少年団体リーダー養成体験学習事業及び青少年体験講座等	112	55	54	84	【】
2	熟年先生講座	79	89	99	84	【】
3	青年団体リーダー養成及び研修会	9	9	9	9	【】
合 計		200	153	162	177	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	こども会リーダー研修会	回	2	2	2	2	【】
2	熟年先生講座参加者数	人	68	76	71	62	【】
3	ジュニアリーダーコース参加者数	人	2	2	2	2	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	3	3	3	3	3	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
2	3	3	3	3	3	3		
3	2	3	2	3	2	3		
							達成度	施策に対する事務事業の達成度
								3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.67	3.00	2.67	3.00	2.67	3.00		



施策区分	(1)学習機会の拡充、活動の支援	担当課	生涯学習課
施策	② 成人の生きがいづくり、心の豊かさや充実感を求める学習ニーズなどに対応するため、成人教育に関する学習活動を促進します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	女性ライフライフスクール学級生数				女性ライフスクールに参加している学級生の数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	39	33	30	26	
		基準年度比(%)	△ 15.4	△ 23.1	△ 33.3	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	3	「自ら学ぶ」「ともに学ぶ」ことの視点から学習の大切さを通して、自立した女性として、社会人としての資質向上を図ることは重要である。		5	女性ライフスクールでは、女性の生活上の課題について学習し、地域社会に貢献する組織として活躍している。また、その他にも成人教育に関する講座を開設し、施策の推進を図っている。	
24年度	3	同上		5	同上	
25年度	3	同上		5	女性ライフスクールの学級生は減少傾向にあるが、女性の生活上の課題について学習し、地域社会に貢献する組織として活躍している。また、その他にも成人教育に関する講座を開設し、施策の推進を図っている。	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	成人の学習活動の一環である女性ライフスクールを開講し、毎年継続して受講している方も多い。	施策の課題	近年、受講者数が減少している。60歳を超えると高齢者と位置づけられ、卒業となることから、若い受講生をどう取り込んでいくか、周知方法も含めて検討していく必要がある。
総合評価(方向性)	成人教育に関する学習機会を提供するために、周知方法等も検討していく必要がある。		



施策区分	(1)学習機会の拡充、活動の支援	担当課	生涯学習課
施策	③ 青少年の健全育成や親の教育を充実させるため、家庭教育に関する学習活動を促進します。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	家庭教育学級参加者数		家庭教育学級に参加した人数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	2,897	2,489	1,826	2,020	
		基準年度比(%)	△ 14.1	△ 37.0	△ 30.3	
数値2						
		基準年度比(%)				

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	青少年の健全育成や親の教育を充実させるため、家庭教育に関する学習活動の促進は必要である。	5	各学級で多種多様な活動が行われ、家庭教育に関する学習活動の促進が図られている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	各小中学校で実施している家庭教育学級は、学校におけるタイムリーな話題に関する講座を設定できるなど、創意工夫によって運営するものであり、学校長が中心となって運営されている。	施策の題	課題は特になく、現施策を推進する。
総合評価(方向性)	青少年の健全育成のためには、家庭教育の充実が重要であるため、学習機会の充実を図る必要がある。		

(1)学習機会の拡充、活動の支援 施策③ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	家庭教育学級・PTA学級の開設	617	617	617	617	【】
合 計		617	617	617	617	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	家庭教育学級の開催	回	85	81	77	76	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度			
1	2	3	2	3	2	3	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
								3	順調に進んでいる(80~100%)
								2	ある程度進んでいる(50~79%)
								1	遅れがある、未着手(50%未満)
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

施策区分	(1)学習機会の拡充、活動の支援	担当課	生涯学習課
施策	④ 高齢者をはじめ町民が地域社会に貢献する場を増やすため、世代間交流や社会参加活動を促進します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	高齢者大学院生の数		高齢者大学院に入学している学生数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	22	25	26	22	
		基準年度比(%)	13.6	18.2	0.0	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	高齢者のもつ知識・技術を生かしながら社会参加を促し、指導者としての育成を図るため、必要な施策である。	5	知識・経験を社会に還元するための学びの場として、高齢者大学・大学院と学習機会の整備が図られ、多くの町民が継続的に学習している。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	高齢者大学で4年間学んだ後に大学院へ進むが、大学生の人数が増減することと大学院への継続を希望しない学生がいることから学生数が増減している。	施策の題	学んだ知識・経験を生かすため、各種生涯学習事業への参加呼びかけを行う必要がある。
総合評価(方向性)	高齢者大学により施策の推進が図られている。学んだことを活かせる環境づくりについても検討していく必要がある。		



施策区分	(1)学習機会の拡充、活動の支援	担当課	生涯学習課
施策	⑤ 町民の学習ニーズをふまえながら、充実した学習機会を設定します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	高齢者学級の学級生数		高齢者学級に参加している学級生の人数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	602	574	544	508	平成24年度から高齢者学級数が7学級から6学級となった。
		基準年度比(%)	△ 4.7	△ 9.6	△ 15.6	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	社会の変化に対応した新しい知識や技術を習得するとともに、明るく豊かな生活を創造する学習を進めることは必要な施策である。	5	様々な活動・交流を通して、健康で豊かな生活を過ごす高齢者が増えている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	学級生数は減少しているが、学級生のニーズに応じて講義を設定しており、充実した学習機会を提供している。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	学級生は減少傾向にあり、平成24年度からは1学級閉級している。	施策の課題	高齢者人口が増加している中、高齢者学級への参加が減少傾向にある。午前の講義と午後のクラブ活動はほぼ学級生の意向を反映して実施しているので、今後は参加者増に向け、広く周知していくことが必要と考える。
総合評価(方向性)	高齢者学級により、高齢者のニーズに応じた学習機会は提供されている。今後は、高齢者以外の町民が求める学習機会がどのようなものか把握し、それに応じた学習機会の提供が必要である。		

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	生涯学習まちづくりセミナー(講演会・シンポジウム等)の開催	124	80	116	173	【】
2	公民館活動学級講座	859	871	772	801	【】
合 計		983	951	888	974	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	まちづくりセミナー参加者数	人	150	120	120	106	【】
2	高齢者学級の参加人数	人	602	574	544	508	【H24】高齢者学級数が7学級から6学級となった。

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
								3	2
								2	1
								1	
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			



施策区分	(1)学習機会の拡充、活動の支援	担当課	生涯学習課
施策	⑥ 町内の各団体やサークルへの参加を促すとともに、自主的な活動を支援します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	PTA会員数				PTAの会員数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	4,020	4,069	4,045	4,011	
		基準年度比(%)	1.2	0.6	△ 0.2	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	生涯学習の観点から、町内の団体、サークルへの参加や活動を支援し、町民の社会教育活動を進めていく必要がある。		5	PTAや郷土芸能、ボランティアなどを支援しており、各団体が自主的に活動を展開している。
24年度	3	同上		5	同上
25年度	3	同上		5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	PTA会員数はほぼで推移している。	施策の課題	特に課題等はなく、今後も継続して取り組む必要がある。
総合評価(方向性)	町内の団体等を把握し、その周知方法を検討しながら、団体そのものの支援も引き続き実施していく必要がある。		

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	PTA連合会補助	585	585	585	585	【】
2	郷土芸能保存協議会交付金	450	450	450	450	【】
3	青年団補助	180	150	180	180	【】
4	竹の子子ども会世話人会補助	760	760	760	760	【】
合 計		1,975	1,945	1,975	1,975	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	家庭教育学級の開催	回	85	81	77	76	【】
2	郷土芸能団体数	団体	6	6	6	6	【】
3	ボランティア活動	回	1	1	2	2	【】
4	子ども会世話人研修会	回	2	2	2	2	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3	3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。	
2	2	3	2	3	2	3		
3	2	3	2	3	2	3		
4	2	3	2	3	2	3	達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		

施策区分	(2)図書館の充実	担当課	図書館
施策	① 学習情報を適切に提供できるように整備を進めるとともに、学習相談体制の充実をはかります。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	蔵書冊数		図書館で所蔵している資料の冊数			
数値2	読書活動振興事業の参加人数		読書活動を振興するために実施した事業の参加人数(ブックスタートを含む)			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	冊	177,688	182,010	188,469	192,672	
	基準年度比(%)		2.4	6.1	8.4	
数値2	人	2,959	4,340	4,022	3,664	
	基準年度比(%)		46.7	35.9	23.8	

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	町民の教養、調査研究等に資するため、常に新鮮な資料・情報を提供する必要がある。	5	24年度の早い時期に目標としている町民一人当たり4冊が達成できる見込みとなっている。
24年度	3	町民の教養、調査研究等に資するため引き続き新鮮な資料・情報を提供する必要がある。また、読書活動振興事業については多くの人が参加しており、新規事業を織り交ぜながら継続する必要がある。	5	蔵書の目標冊数は達成したところである。また、読書活動振興事業には多くの人が参加しており、一定の効果をあげている。
25年度	3	町民のニーズに応えられる新鮮な資料・情報を引き続き提供していく。また、読書活動振興事業については、関連図書の利用にもつながっており、継続して実施する必要がある。	5	蔵書冊数については目標の数値を達成している。読書活動推進事業については、例年行っている事業のほかに新規事業も実施し、多くの人が参加しているところである。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	蔵書冊数の目標は達成し、新鮮な資料・情報を提供できている。読書活動推進事業については23年度をピークに減少しているが、多くの人が参加している。	施策の題	蔵書については不要な資料を除籍しながら新陳代謝を図らなければならない。読書活動推進事業については、中学生、高校生が図書館利用の最も少ない年代であり、この年代を対象とした事業を展開していかななければならない。
総合評価(方向性)	図書館の蔵書を内容を含め計画的に整備し、引き続き町民の学習を支援するとともに、図書館での学習相談体制についても検討していく必要がある。		

(2)図書館の充実 施策① - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	図書資料等の整備	11,351	10,135	10,546	10,365	【】
2	読書活動振興	363	389	397	414	【】
3	ブックスタート	375	260	482	605	【H25】10ヵ月児のブックスタートに加え、2歳児のブックスタートプラスを実施
4	図書館情報システムの整備	5,166	5,166	2,161	1,127	【H25】平成24年度6月で賃貸借契約が満了し、新たに保守契約を結んだため、実績額が減となっている。
合 計		17,255	15,950	13,586	12,511	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	蔵書冊数	冊	177,688	182,010	188,469	192,672	【】
2	読書活動振興事業実施件数	人	2,538	3,704	3,384	2,923	【】
3	ブックスタート参加人数	人	421	636	638	741	【】
4	図書館情報システム	式	1	1	1	1	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	2	3	2	3	2	3	3	2	1
3	2	3	2	3	2	3	3	2	1
4	3	3	3	3	3	3	3	3	1
平均	2.50	3.00	2.50	3.00	2.50	3.00		3	1

達成度  
3 順調に進んでいる(80~100%)  
2 ある程度進んでいる(50~79%)  
1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)図書館の充実	担当課	図書館
施策	② 図書館活動の拡充に積極的に取り組み、蔵書の整備を計画的に進めます。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称		説明			
数値1	蔵書冊数		図書館で所蔵している資料の冊数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	冊	177,688	182,010	188,469	192,672	
		基準年度比(%)	2.4	6.1	8.4	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	5	町民の教養、調査研究等に資するため、常に新鮮な資料・情報を提供する必要がある。		5	24年度の早い時期に目標としている町民一人当たり4冊が達成できる見込み	
24年度	5	蔵書冊数の目標は達成したが、町民の教養、調査研究等に資するため引き続き新鮮な資料を提供するため、必要な施策である。		5	目標としていた町民一人当たり4冊を達成し、計画的に蔵書整備を行っている。	
25年度	5	同上		5	複本となっている児童書を除籍し、子どもの読書推進のためのプレゼント用とするなど、既存図書の新陳代謝をはかりながら、計画的に蔵書整備を行っている。	
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	計画的に整備を進めたことにより蔵書冊数の目標は達成し、新鮮な資料・情報を提供できている。	施策の題	現施策により推進するが、いずれ図書館及び分館における蔵書の収容能力を超える時期がくるため、不用になる図書の活用方法を考えながら計画的に蔵書の新陳代謝を図らなければならない。
総合評価(方向性)	計画的な蔵書整備により、目標とした蔵書冊数を達成した。今後は図書の新陳代謝を図りながら、多くの町民が利用しやすい図書館の環境整備のため、町民のニーズに合わせた資料等の提供と図書館活動の充実に努める必要がある。		

(2)図書館の充実 施策② - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	図書資料等の整備	11,351	10,135	10,546	10,365	【H25】3,898冊廃棄、5,776冊購入
2	図書修理書架清掃事業(緊急地域雇用特別対策推進事業)	3,535	3,642			平成23年度事業完了
合 計		14,886	13,777	10,546	10,365	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	町民一人当たりの蔵書冊数	冊	4	4	4	4	
2	雇用人数	人	4	4			平成23年度事業完了

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3						3	2
								3	2
								3	2
								3	2
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00		3	2

1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町は、生涯スポーツの観点から、誰もが気軽にスポーツに参加できる機会を拡充し、心身ともに健康で充実した生活を営むため、野球場、総合体育館、温水プール、パークゴルフ場などスポーツ施設の整備、充実と、子どもから高齢者までを対象とした各種スポーツ活動の推進に取り組んでいます。
- スポーツ活動への参加意欲が高まるにつれ、活動施設や活動内容へのニーズも、多様化、高度化しており、これらに対応したスポーツ活動の機会の充実や施設を有効に使うための環境整備が必要です。
- 本町にあるスポーツ施設のうち、温水プール、総合体育館、武道館については、指定管理者制度による民間委託で施設運営を行っています。
- スポーツ施設の整備については、「社会体育施設整備計画」を見直し、計画的に整備を進めていくことが必要です。

2 計画策定時の「めざす方向」

- 気軽に参加できるスポーツ活動機会の拡充とスポーツ環境の充実、指導者の育成に努め、町民の健康づくりを進めます。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

スポーツセミナー、各種スポーツ教室などを開催し、スポーツ教室は参加実績が町の人口を上回る状況となっている。また、スポーツ競技大会参加者に対して補助金を交付し、積極的な活用が図られている。体育協会への補助を通じて、スポーツ活動の推進体制強化を図っている。ハード面では、コミセン・会館の有効利用を図り、その他スポーツ施設の整備を行っているが、財政的要因から、計画どおりには進んでいない状況となっている。

(2)残されている課題等

町民ニーズを把握し、スポーツを学ぶ場、体験する場を提供し、施設については、財政的な制約の中で、計画的に効果的な維持管理、補修をいかに進めていくかが課題となっている。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	4.63	分野全体の達成状況	A	A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49) C 計画を下回っている(3.00～3.99) D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)
------------	------	-----------	---	--



5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策						
施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記号	
施策						
所管課						
<b>(1)スポーツ活動の促進</b>						
① スポーツによる個々の年代、体力に沿った健康づくりをめざし、スポーツ活動の普及に努めます。						
スポーツ課	5	5	5	各種教室、町民大会等を実施し、引き続き町民皆スポーツを目指し、施策の推進を図る必要がある。	①-1	
② 各種大会に参加する際に、必要な支援を行います。						
スポーツ課	5	5	5	スポーツ競技大会参加者への補助を通して、保護者の負担を軽減し、スポーツ大会に参加しやすい環境づくりに引き続き努める必要がある。	②-1	
③ スポーツ活動を促進するため、情報の収集、提供と指導体制の充実に努めます。						
スポーツ課	5	5	5	町民ニーズを把握しながら、情報提供や指導者教室を開催し、施策の推進を図る必要がある。	③-1	
④ 気軽に楽しめるスポーツを取り入れ、普及させます。						
スポーツ課	3	3	3	町民が気軽に楽しめるスポーツについて、情報提供等を行いながら、町民の健康増進のため普及に努める必要がある。	④-1	
⑤ スポーツ活動の推進体制をより一層充実させるため、体育協会との連携を深め事業を進めます。						
スポーツ課	5	5	5	体育協会と連携しながら、スポーツ活動の推進体制をより充実させるために、内容等の検討を行っていく必要がある。	⑤-1	
<b>(2)利用しやすいスポーツ活動の場づくり</b>						
★ ① スポーツ施設の整備、維持管理を計画的に進めます。						
スポーツ課	4	4	4	スポーツ活動機会や環境の充実のため既存施設の維持管理などを行っている。今後は、施設整備計画と財政面の調整を取りながら整備を推進していく必要がある。	①-1	
② スポーツ関連施設以外でも、スポーツ活動に利用できる施設については、有効活用をはかります。						
町民	5	5	5	会館等の活用を中心にして、施策の推進が図られている。今後も町民の要望と会館等施設の状況を把握しながら、活用可能な場合は、町民の意見聴取を行いながら実施していく。	②-1	
スポーツ課	5	5	5	学校開放を通じて施策の推進が図られている。引き続き取り組んでいくとともに、他に有効活用が可能な施設がないかについても検討していく必要がある。	②-2	
全施策の推進状況の平均値	4.63	4.63	4.63			



## 6 指標の実績

### (1)区分

番号	目標指標名	説明
1	「教育・スポーツ・文化・国際交流などについて」の「スポーツ活動の推進」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
2	「教育・スポーツ・文化・国際交流などについて」の「スポーツ施設の充実」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
3	スポーツ活動利用者数	スポーツ活動の施設年間利用者数
4	スポーツ教室・大会の参加者数	各種スポーツ教室・大会の参加者数(年間)
5		
6		

### (2)指標の推移

番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1	%	85.5	H20	86.2	86.1	84.1	87.0	H27	96.7
2	%	81.1	H20	83.2	80.3	80.5	83	H27	97.0
3	人	295,390	H21	326,354	316,254	305,702	298,000	H26	102.6
4	人	40,096	H21	47,924	46,412	47,602	40,500	H26	117.5
5									
6									

### (3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)

番号	内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	

施策区分	(1)スポーツ活動の促進	担当課	スポーツ課
施策	① スポーツによる個々の年代、体力に沿った健康づくりをめざし、スポーツ活動の普及に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	体力づくり、健康づくりの振興		各種教室参加者、町民大会等の参加者			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	45,228	47,924	46,243	47,515	
		基準年度比(%)	6.0	2.2	5.1	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	スポーツ活動のきっかけを作るための各種教室への参加及び競技スポーツの参加を目的としている。	5	平成23年度は、47,924人が各種教室・大会に参加しており、参加実績が町の人口を上回っており、(町民皆スポーツ)施策の推進が図られている。
24年度	3	同上	5	平成24年度は、46,243人が各種教室・大会に参加しており、参加実績が町の人口を上回っており、(町民皆スポーツ)施策の推進が図られている。
25年度	3	同上	5	平成25年度は、47,515人が各種教室・大会に参加しており、参加実績が町の人口を上回っており、(町民皆スポーツ)施策の推進が図られている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	参加実績が町の人口を上回る(町民皆スポーツ)状況が続いている。	施策の課題	さらなる健康づくりを推進するため、スポーツ活動の普及に継続して取り組む必要がある。
総合評価(方向性)	各種教室、町民大会等を実施し、引き続き町民皆スポーツを目指し、施策の推進を図る必要がある。		



施策区分	(1)スポーツ活動の促進	担当課	スポーツ課
施策	② 各種大会に参加する際に、必要な支援を行います。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	スポーツ競技大会参加補助金		全道以上の大会に参加する際の経費の一部を補助			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	270	284	331	282	
		基準年度比(%)	5.2	22.6	4.4	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	全道大会以上のスポーツ競技大会へ参加する場合、会場までの交通費また宿泊を伴うことがあり、参加者負担を軽減させ、より大きな大会へ参加しやすくすることが必要。	5	平成23年度は、284人に補助を行い、参加者負担軽減に努めた。近年は、当初想定している人数より多くの人に補助金を交付している。
24年度	3	同上	5	平成24年度は、331人に補助を行い、参加者負担軽減に努めた。近年は、当初想定している人数より多くの人に補助金を交付している。
25年度	3	同上	5	平成25年度は、282人に補助を行い、参加者負担軽減に努めた。近年は、当初想定している人数より多くの人に補助金を交付している。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	補助金の交付人数は当初想定を上回っている。	施策の題	全道大会以上のスポーツ競技大会へ参加する場合、会場までの交通費また宿泊を伴うことがあり、参加者負担を軽減させ、より大きな大会へ参加しやすくすることが必要。
総合評価(方向性)	スポーツ競技大会参加者への補助を通して、保護者の負担を軽減し、スポーツ大会に参加しやすい環境づくりに引き続き努める必要がある。		

(1)スポーツ活動の促進 施策② - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	全道・全国大会参加補助	2,411	2,530	2,944	2,542	【】
合 計		2,411	2,530	2,944	2,542	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	全道・全国大会参加補助	人	270	284	331	282	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

施策区分	(1)スポーツ活動の促進	担当課	スポーツ課
施策	③ スポーツ活動を促進するため、情報の収集、提供と指導体制の充実に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	スポーツセミナーの実施		中央より講師を招き、スポーツ技術・知識の向上をはかる。			
数値2	スポーツ指導者研修会の実施		スポーツ指導者を一堂に会し、指導者としての資質の向上をはかる。			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	133	113	102	132	
	基準年度比(%)		△ 15.0	△ 23.3	△ 0.8	
数値2	人	102	108	150	69	
	基準年度比(%)		5.9	47.1	△ 32.4	

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	スポーツ活動を促進するために、指導者の育成や競技者の資質の向上が必要である。	5	スポーツセミナーではバレーボール教室を実施し、スポーツ指導者研修会では『スポーツ指導におけるファンダメンタルの徹底』と題した講演会を実施し、指導者の育成や競技者の資質向上に努めた。
24年度	3	同上	5	スポーツセミナーでは卓球教室を実施し、スポーツ指導者研修会では『コーチングの心理学』と題した講演会を実施し、指導者の育成や競技者の資質向上に努めた。
25年度	3	同上	5	スポーツセミナーでは水泳教室を実施し、スポーツ指導者研修会では『効率よく上手になる指導法』と題した講演会を実施し、指導者の育成や競技者の資質向上に努めた。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	スポーツセミナーについては、毎年各種目で多くの参加者が集まっている。スポーツ指導者研修会については、その内容によって参加者数にばらつきがある。	施策の課題	スポーツ指導者研修会については、テーマ設定や周知方法の工夫により参加者数を増加させる必要があり、派遣講師の充実が課題の一つとしてあげられる。
総合評価(方向性)	町民ニーズを把握しながら、情報提供や指導者教室を開催し、施策の推進を図る必要がある。		



施策区分	(1)スポーツ活動の促進	担当課	スポーツ課
施策	④ 気軽に楽しめるスポーツを取り入れ、普及させます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	新スポーツに係るスポーツ推進委員会の開催				気軽に楽しめる新スポーツを町民に対して普及していく。	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	回	3	4	5	6	
	基準年度比(%)		33.3	66.7	100.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	町民が気軽に楽しめるスポーツが普及することは、健康の増進に必要な施策である。		3	一般町民を対象にした新しいスポーツの情報収集や検討を行ったが、普及には至らなかった。
24年度	3	同上		3	一般町民を対象にした新しいスポーツの種目を検討し、決定したが普及には至らなかった。
25年度	3	同上		3	前年度決定した新しいスポーツを広報誌上で3回シリーズでPRし、次年度の講習会開催に向けて準備したが、町民を対象にした普及には至っていない。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	新しいスポーツ種目の検討に時間を要したが、平成25年度は精力的に活動して普及に向けた準備を整えた。	施策の題	新しいスポーツを普及・定着させるにはサークル等の活動団体育成が必要と考えられるため、一定時間を要する。
総合評価(方向性)	町民が気軽に楽しめるスポーツについて、情報提供等を行いながら、町民の健康増進のため普及に努める必要がある。		



(1)スポーツ活動の促進 施策④ - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	スポーツ推進委員費	354	319	345	344	【】
合 計		354	319	345	344	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	スポーツ推進委員会議	回	3	4	5	6	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	1	2	2	2	2	3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)	
							2	貢献している(施策を推進する事務事業)	
							1	貢献していない。	
							達成度	施策に対する事務事業の達成度	
						3		順調に進んでいる(80~100%)	
						2		ある程度進んでいる(50~79%)	
							1	遅れがある、未着手(50%未満)	
平均	2.00	1.00	2.00	2.00	2.00	2.00			

施策区分	(1)スポーツ活動の促進	担当課	スポーツ課
施策	⑤ スポーツ活動の推進体制をより一層充実させるため、体育協会との連携を深め事業を進めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	体育協会と連携して実施した事業の参加者		体育協会及びその加盟団体と教育委員会が共催等で行った各種スポーツ大会の参加者数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	3,027	2,940	2,769	3,272	
		基準年度比(%)	△ 2.9	△ 8.5	8.1	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	スポーツ活動を充実させ、振興していくためには、体育協会との連携は必要な施策である。	5	体育協会と連携し、町民えんそくや町民スポーツ大会を開催したが、基準年度との比較では、2.9%参加者が減少した。
24年度	3	同上	5	体育協会と連携し、町民えんそくや町民スポーツ大会を開催したが、基準年度との比較では、8.5%参加者が減少した。
25年度	3	同上	5	体育協会と連携し、町民えんそくや町民スポーツ大会を開催し、基準年度との比較では、8.1%、前年度とでは16.6%参加者が増加した。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	基準年度との比較では平成23・24年度と減少傾向であったが、平成25年度は大きく回復している。	施策の課題	推進体制の要である体育協会は、加盟団体数は固定しているものの会員数が減少してきたため、組織の活性化が求められる。
総合評価(方向性)	体育協会と連携しながら、スポーツ活動の推進体制をより充実させるために、内容等の検討を行っていく必要がある。		

(1)スポーツ活動の促進 施策⑤ - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	体育協会補助	3,137	3,195	3,195	3,195	【】
合 計		3,137	3,195	3,195	3,195	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	町民えんそく	人	53	43	54	66	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3	2	3	2	3		3	大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)
								2	貢献している(施策を推進する事務事業)
								1	貢献していない。
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

達成度	施策に対する事務事業の達成度	
	3	2
	3	順調に進んでいる(80~100%)
	2	ある程度進んでいる(50~79%)
	1	遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)利用しやすいスポーツ活動の場づくり	担当課	スポーツ課
施策	① スポーツ施設の整備、維持管理を計画的に進めます。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	スポーツ施設整備箇所数				新設・改修等の整備が完了した施設数	
数値2	総合体育館・武道館利用者数				総合体育館及び武道館の利用者数	
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	箇所	1	5	0	3	[H25] 多目的広場ダグアウト設置工事、希望が丘野球場グランド補修工事、中央公園ソフトボール場防球ネット設備工事
	基準年度比(%)		400.0	△ 100.0	200.0	
数値2	人	166,931	176,300	181,168	175,313	
	基準年度比(%)		5.6	8.5	5.0	

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	5	近年、スポーツ活動施設や活動内容のニーズが多様化し、スポーツ活動機会の拡充とスポーツ環境の充実が求められており、必要な施策である。		4	既存施設の維持管理や改修を行った。また、スポーツ施設整備計画の策定に向けた協議を行っている。	
24年度	5	同上		4	24年度は施設の改修等はなく、スポーツ施設整備計画の策定に向けた最終協議を行った。総合体育館、武道館の利用者は増加傾向にある。	
25年度	5	同上		4	既存施設の改修及び補修工事を実施し、中央公園ソフトボール場の防球ネット新設工事を行ったが、スポーツ施設整備計画からはやや遅れている。	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	財政的要因等から、スポーツ施設整備計画通りの整備とはなっていないが、平成25年度は、多目的広場ダグアウト設置工事、希望が丘野球場グランド補修工事、中央公園ソフトボール場防球ネット設備工事を実施した。	施策の題	現施策により推進するが、財政的な要因等からスポーツ施設整備計画に基づいた整備が難航しており、新規施設を整備する段階には至っていない。
総合評価(方向性)	スポーツ活動機会や環境の充実のため既存施設の維持管理などを行っている。今後は、施設整備計画と財政面の調整を取りながら整備を推進していく必要がある。		

(2)利用しやすいスポーツ活動の場づくり 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、 実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	スケートリンク造成交付金	4,387	4,092	4,092	4,092	【】
2	町営パークゴルフ場管理経費	50,916	55,220	58,944	54,763	【】
3	パークゴルフ場管理運営交付金	711	3,111	610	655	【】
4	町営リンク等造成交付金他	2,020	2,020	2,020	3,733	【】
5	屋外運動施設管理経費	20,609	22,952	21,597	31,452	【】
6	軽スポーツセンター管理経費	3,654	3,360	3,149	2,384	【】
7	総合体育館・武道館管理経費	63,166	68,999	67,876	82,682	【】
8	温水プール管理経費	84,245	82,907	93,105	90,211	【】
9	既存社会体育施設の整備	1,715	47,951		46,897	【】
合 計		231,423	290,612	251,393	316,869	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	スケートリンク造成箇所数	箇所	17	16	16	16	【H25】小学校- 音更、下音更、駒場、下士幌、西中音更、東士狩、東士狩、昭和、豊田、南中音更、木野東、柳町、緑陽台、鈴蘭 中学校- 共栄
2	町営パークゴルフ場箇所数	箇所	6	6	6	6	【H25】駒場北緑地、音更川リバーパーク、柳町河川緑地、ひばりが丘緑地、すずらん河川緑地、十勝川温泉アクアパーク
3	地域パークゴルフ場箇所数	箇所	5	4	4	4	【H25】南中士幌、東士幌、木野東、然別、
4	町営リンク造成箇所数	箇所	3	3	3	3	【H25】町営スケートリンク、アイスホッケーリンク、カーリングリンク
5	屋外運動施設管理箇所数	箇所	11	11	11	11	【H25】中央運動公園-ソフトボール場、希望が丘公園-テニスコート・アイスホッケー場・カーリング場・野球場、緑陽台近隣公園-ソフトテニス場、木野北テニスコート、柳町広場-野球場・サッカー場・テニスコート、木野広場-サッカー場
6	軽スポーツセンター数	箇所	2	2	2	2	【H25】鈴蘭軽スポーツセンター、宝来軽スポーツセンター
7	総合体育館・武道館利用者数	人	166,931	176,300	181,168	175,313	【】
8	温水プール利用者数	人	70,425	73,801	70,965	69,645	【】
9	スポーツ施設の新設・改修箇所数	箇所	1	5		3	【H25】多目的広場ダグアウト設置工事、希望が丘野球場グラウンド補修工事、中央公園ソフトボール場防球ネット設備工事

(3)事務事業の評価							
事業 番号	23年度		24年度		25年度		貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度	
1	3	3	3	3	3	3	施策に対する事務事業の貢献度 3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
2	3	3	3	3	3	3	
3	3	3	3	3	3	3	
4	3	3	3	3	3	3	施策に対する事務事業の達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)
5	3	3	3	3	3	3	
6	3	3	3	3	3	3	
7	3	3	3	3	3	3	
8	3	3	3	3	3	3	
9	3	2	3	2	3	2	
平均	3.00	2.89	3.00	2.89	3.00	2.89	

施策区分	(2)利用しやすいスポーツ活動の場づくり	担当課	町民課
施策	② スポーツ関連施設以外でも、スポーツ活動に利用できる施設については、有効活用をはかります。		

### 1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	スポーツ活動に利用できる施設数		コミセン・会館等でスポーツ活動が行われている施設数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	箇所	5	6	6	6	【H23】 木野コミセン卓球台設置
	基準年度比(%)		20.0	20.0	20.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

### 2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	スポーツ活動の場の拡大を図るために必要な施策である。	5	駒場会館、ひびき野会館、木野北部児童館、共栄コミセン、総合福祉センターがスポーツ活動に利用できる施設であったが、新たに木野コミセンに卓球台を設置し、計6箇所の施設がスポーツ活動に利用できる施設となった。
24年度	3	同上	5	前年度同様、6施設において、空手、バトン、卓球、スポーツチャンバラ等が行われている。
25年度	3	同上	5	前年度同様、6施設で様々なスポーツが行われており、今後は住民の要望を把握しながら、可能な箇所があれば有効活用を図っていく。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

### 3 施策の分析及び評価

成果の推移	平成23年度より、6箇所の施設がスポーツ活動に利用されている。	施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(方向性)	会館等の活用を中心にして、施策の推進が図られている。今後も住民の要望と会館等施設の状況を把握しながら、活用可能な場合は、住民の意見聴取を行いながら実施していく。		





施策区分	(2)利用しやすいスポーツ活動の場づくり	担当課	スポーツ課
施策	② スポーツ関連施設以外でも、スポーツ活動に利用できる施設については、有効活用をはかります。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	学校体育施設等開放事業		学校運営に支障のない曜日・時間帯に学校体育館等を開放し、スポーツ活動の場として提供する。			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	99,363	93,547	92,905	91,498	
		基準年度比(%)	△ 5.9	△ 6.5	△ 7.9	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	学校体育館等の施設を開放し、スポーツ活動に利用することは、町民の健康増進のためにも必要な施策である。	5	平成23年度は、93,547人がスポーツ活動の場として学校開放を利用しており、有効活用が図られている。
24年度	3	同上	5	平成24年度は、92,905人がスポーツ活動の場として学校開放を利用しており、有効活用が図られている。
25年度	3	同上	5	平成25年度は、91,498人がスポーツ活動の場として学校開放を利用しており、有効活用が図られている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	利用者数は減少傾向にあるが、利用状況は良好である。	施策の課題	利用団体が年々増加しているため、施設によっては利用回数を制限されている場合がある。また、スポーツ活動に必要な備品の老朽化が進行しており、計画的な更新が課題となっている。
総合評価(方向性)	学校開放を通じて施策の推進が図られている。引き続き取り組んでいくとともに、他に有効活用が可能な施設がないかについても検討していく必要がある。		



1 計画策定時の「現状と課題」

- 本町は、優れた芸術文化を鑑賞する機会や、芸術文化活動に参加する機会などを充実させるため、関係団体との連携のもと、地域に根ざしたさまざまな事業を展開しています。今後も、多様化する町民ニーズに対応し、芸術文化を鑑賞する機会などを提供していくことが必要です。
- 文化協会や文化事業協会など文化団体との連携を深め、町民の文化活動の発表の場づくりなどを行うとともに、文化団体の育成や活動の充実に努めています。今後も、町民が自主的に文化活動に参加しやすい環境を整備し、参加意欲を高めていくとともに、優れた指導者の確保や活動の場となる施設の充実により、活動を促進していくことが必要です。
- 「十勝駒踊」「東土狩獅子舞」「矢部獅子舞」の3件の郷土芸能と、構造土である「十勝坊主」を町指定文化財として指定し、保存や伝承に努めています。今後も、これらの保存、活用をはかるとともに、郷土芸能保存団体などの後継者を育成、支援し、豊かな郷土愛を育てていくことが必要です。

2 計画策定時の「めざす方向」

- 個性豊かで新しい地域文化を創造し、町民が主体的に文化活動に関わることができる環境づくりや、その活動支援に努めます。
- 文化財や郷土芸能を保護し、保存団体の育成をはかるとともに、文化財などに親しむ機会を提供し、保存、伝承に努めます。

3 推進状況

(1)これまでの主な取り組みと成果

芸術鑑賞事業への参加人数は減少しているが、内容については吟味・厳選し、質の高い事業を展開している。芸術鑑賞や文化祭を開催し、芸能発表会の参加者も中間目標値に近づいている。文化事業協会への補助を行っているが、会員数は減少傾向にある。文化センターの維持管理については、計画的な維持管理、補修を進めている。埋蔵文化財の保存、郷土資料室の管理を推進し、郷土芸能の保護を進めている。

(2)残されている課題等

芸術にふれる機会を増やすために、その周知方法について検討していくとともに、拠点となる文化センターの計画的な維持管理、補修、改築を進め、使い良い拠点づくりに努める。また、埋蔵文化財や郷土芸能を保護し、認知度を高め関心をもってもらう取組を推進することが課題となっている。

4 中間年における推進状況

全施策の達成度の平均	4.75	分野全体の達成状況	A	A 計画どおり進んでいる(4.50～5.00) B おおむね計画どおり進んでいる(4.00～4.49) C 計画を下回っている(3.00～3.99) D 大幅に計画を下回っている(0～2.99)
------------	------	-----------	---	--

5 各施策の進捗状況の評価 ※★印は重点施策						
施策区分	H23	H24	H25	総合評価	施策 参照 記号	施 策 参 照 号
施策						
所管課						
(1)芸術文化活動の促進						
★ ① 町民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供します。						
文化センタ	4	4	4	芸術鑑賞事業の開催数の減少に伴い減少しているが、今後も各種事業推進は必要である。関係団体との連携により、事業数を確保しながら、町民ニーズを把握し優れた芸術文化を鑑賞する機会や芸術文化活動への参加の機会を充実させる必要がある。	①-1	
② 芸術文化の普及と文化事業や活動内容の充実に努めます。						
文化センタ	5	4	4	関係機関と連携しながら、文化事業や活動の充実に努め施策を推進していく必要がある。	②-1	
③ 芸術文化活動団体やサークルの活動を支援し、人材の育成に努めます。						
文化センタ	5	5	5	文化事業協会と文化協会に対する支援を通じて施策の推進が図られている。今後さらに連携を密にして、芸術文化活動の提供を行っていき人材の育成に努める必要がある。	③-1	
④ 芸術文化大会に参加する際に、必要な支援を行います。						
教委生涯	5	5	5	芸術文化大会への参加を助成することで、保護者の負担軽減を図り、青少年の芸術文化大会への参加を促しており、引き続き施策の推進を図る必要がある。	④-1	
(2)文化活動の場の充実						
① 文化センターの施設整備、維持管理に努めます。						
文化センタ	5	5	5	芸術文化事業の場の中心である文化センターの維持管理を計画的に行い、施策の推進を図る必要がある。	①-1	
(3)文化財などの保護、活用						
① 町指定文化財などの保護保存に努めるとともに、その積極的な活用をはかります。						
教委生涯	5	5	5	音更町の文化財の保存保護に努めるため、引き続き調査等を行っていく必要がある。	①-1	
② 収集した資料を整理保存し、展示などを通じて活用します。						
教委生涯	5	5	5	郷土資料室の活用により施策の推進が図られている。引き続き習場所として充実を図る必要がある。	②-1	
③ 郷土芸能を継承し、後世に伝えていくため、保存団体の育成、支援に努めます。						
教委生涯	5	5	5	郷土芸能団体の支援を通して施策の推進が図られている。引き続き音更町の伝統文化が継承されるよう支援を実施する必要がある。	③-1	
全施策の推進状況の平均値	4.88	4.75	4.75			

## 6 指標の実績

### (1)区分

番号	目標指標名	説明
1	「教育・スポーツ・文化・国際交流などについて」の「芸術文化活動の促進」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
2	「教育・スポーツ・文化・国際交流などについて」の「芸術文化施設の充実」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
3	文化・芸術事業の参加者数	芸術鑑賞や文化祭などの参加人数(年間)
4	文化センター利用者数	文化センターの年間延べ利用者数(年間)
5	「教育・スポーツ・文化・国際交流などについて」の「文化財や史跡の伝承保存」に対する町民の満足度	平成20年まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)
6		

### (2)指標の推移

番号	単位	当初		実績値			中間目標値(イ)		中間目標との対比(ア/イ)%
		数値	年度	H23	H24	H25(ア)	数値	年度	
1	%	86.4	H20	84.6	85.3	85.2	87.0	H27	97.9
2	%	86	H20	83.7	82.8	84.7	87	H27	97.4
3	人	15,816	H17~21	15,290	11,136	13,021	15,900	H26	81.9
4	人	85,974	H21	81,252	74,739	60,762	86,800	H26	70.0
5	%	84.8	H20	84.4	84.1	85.2	84.8	H27	100.5
6									

### (3)特記事項(各実績年度において、指標に変化を与えるような影響など)

番号	内容
1	
2	
3	現状値は平均値
4	
5	
6	

施策区分	(1)芸術文化活動の促進	担当課	文化センター
施策	① 町民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供します。		重点施策

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	小・中学生の芸術鑑賞会参加人数				児童劇・札幌交響楽団コンサート	
数値2	芸術鑑賞事業参加人数				文化事業協会との連携事業	
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	2,696	2,666	2,575	2,590	
	基準年度比(%)		△ 1.1	△ 4.5	△ 3.9	
数値2	人	8,653	9,294	5,924	5,518	【H25】H24に比べ1事業、406人の減となった。
	基準年度比(%)		7.4	△ 31.5	△ 36.2	

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	5	芸術鑑賞機会の提供は、芸術文化への理解や興味、関心への動機づけとなり、芸術文化活動への参加や参画となるため、必要な施策である。		4	文化事業協会と連携し各種コンサートを開催するなど芸術文化の鑑賞機会の提供を行っている。
24年度	5	同上		4	文化事業協会と連携し各種コンサートを開催するなど芸術文化の鑑賞機会の提供を行っている。平成24年度は芸術鑑賞事業が2事業減ったため参加人数が減少したが、鑑賞機会の提供に努めた。
25年度	5	同上		4	文化事業協会と連携し、幼児児童向け舞台公演からジャズ・ロック等の音楽公演、郷土史絵本原画展等の美術展示など各ジャンルで質の高い鑑賞事業を展開した。前年度より406人の減少であった。事業費の制約もあるが、今後も鑑賞機会の充実を目指して取り組む必要がある。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	平成25年度は大・小ホールの2か月半の休館があり、会議室での幼児児童向け鑑賞事業(人形劇、参加型音楽コンサート)など工夫を凝らした内容と新規事業(郷土史絵本原画展)を展開した結果、406人の減となった。	施策の題	現施策により推進していくが、多様化する住民ニーズに対応するための、継続的な芸術鑑賞機会の提供が必要である。
総合評価(方向性)	芸術鑑賞事業の開催数の減少に伴い減少しているが、今後も各種事業推進は必要である。関係団体との連携により、事業数を確保しながら、町民ニーズを把握し優れた芸術文化を鑑賞する機会や芸術文化活動への参加の機会を充実させる必要がある。		

(1)芸術文化活動の促進 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	中学生のための音楽教室	3,291	3,290	3,292	3,253	帯広市との共同開催であり、北海道新聞社の事業助成金で実施している。
2	小学生芸術鑑賞会	285	560	480	556	
3	文化事業協会運営事業補助	4,500	4,500	4,500	4,500	26年度が設立30周年となり、全ての事業に30周年記念事業の冠をつけ実施。
4	文化協会補助	1,855	1,855	1,855	1,855	
5	芸術文化等事業補助(文化事業協会運営事業補助)	700	3,200		728	
合 計		10,631	13,405	10,127	10,892	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	札幌交響楽団コンサート	人	1,034	1,058	1,081	1,060	
2	小学生芸術鑑賞会	人	1,662	1,608	1,494	1,530	
3	芸術鑑賞事業参加人数	人	8,653	9,294	5,924	5,518	【H22】15事業【H23】17事業【H24】15事業【H25】14事業
4	各部会発表会参加人数	人	1,166	1,112	2,536	2,350	歌謡部会、詩吟部会、ダンス部会、民謡部会、舞踊部会、邦楽・大正琴部会
5	芸術鑑賞事業参加人数	人	600	1,000	581	385	各種補助事業の活用事業

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
3	3	3	3	3	3	3	3	2	1
4	3	3	3	3	3	3	3	2	1
5	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3	2

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)



施策区分	(1)芸術文化活動の促進	担当課	文化センター
施策	② 芸術文化の普及と文化事業や活動内容の充実に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	文化・芸術事業の参加者数		芸術鑑賞や文化祭などの参加人数(年間)			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	14,389	13,596	11,097	13,021	【H25】施策評価の数値を收容人員とした。
		基準年度比(%)	△ 5.5	△ 22.9	△ 9.5	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	多様化する町民ニーズに対応し、芸術文化を鑑賞する機会などを提供することは、必要な施策である。	5	23年度の参加者数は、中華目標である15,900人の85%となっている。
24年度	3	同上	4	24年度の参加者数は、11,097人で、目標値(中間数値)の70%となっている。
25年度	3	同上	4	25年度の参加者数は、13,021人で、目標値(中間数値)の70%となっている。
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	来場者数には変動があるもの、11月3日開催の芸能発表大会には1,000人を超す来場がある。	施策の題	文化祭会場が分散しているため、(文化センター、共栄・木野コミセン)文化センター以外の来場者数に特に変動がある。集客増への工夫を含め内容の検討を実行委員会で協議する必要がある。
総合評価(方向性)	関係機関と連携しながら、文化事業や活動の充実に努め施策を推進していく必要がある。		



(1)芸術文化活動の促進 施策② - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	文化事業協会運営事業補助	4,500	4,500	4,500	4,500	
2	文化協会補助	1,855	1,855	1,855	1,855	
合 計		6,355	6,355	6,355	6,355	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	バックステージツアー	人		35	35		【H24】会員交流会の実施
2	文化祭	人	4,600	3,330	2,637	5,153	【H25】出品数の減少はあったが、来場者数は増加した。

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	2	3	3	3	3	3	2	1
2	3	2	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	2.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
1 貢献していない。

3 順調に進んでいる(80~100%)  
2 ある程度進んでいる(50~79%)  
1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(1)芸術文化活動の促進	担当課	文化センター
施策	③ 芸術文化活動団体やサークルの活動を支援し、人材の育成に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	文化事業協会正会員数		文化事業協会舞台部門、美術部門、音楽部門の会員数。			
数値2	文化協会会員数		文化協会118団体の会員数。			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	86	92	92	92	【H25】賛助会員個人:33人、賛助会員法人:82団体、正会員:92人
	基準年度比(%)		7.0	7.0	7.0	
数値2	人	1,927	1,792	1,735	1,491	【H25】団体数では、H22:139団体、H23:130団体、H24:129団体、H25:118団体
	基準年度比(%)		△ 7.0	△ 10.0	△ 22.6	

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	文化団体の育成をはじめ、活動の充実、優れた指導者を確保するため、必要な施策である。	5	文化団体及び各種サークルへの施設利用料の減免などを通じて支援に努めている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	文化事業協会の正会員数に増減はなく、文化協会の会員数は減少傾向にある。	施策の課題	芸術文化活動においては、集客力のある事業の選定と幅広い周知、また会員の高齢化が課題となっている。
総合評価(方向性)	文化事業協会と文化協会に対する支援を通じて施策の推進が図られている。今後さらに連携を密にして、芸術文化活動の提供を行っていきける人材の育成に努める必要がある。		

(1)芸術文化活動の促進 施策③ - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	文化事業協会運営事業補助	4,500	4,500	4,500	4,500	
2	文化協会補助	1,855	1,855	1,855	1,855	
合 計		6,355	6,355	6,355	6,355	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	正会員数	人	86	92	92	92	
2	会員数	人	1,927	1,792	1,735	1,491	【H25】年々会員の高齢化が進み、団体数及び会員数の減少が見られる。

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(1)芸術文化活動の促進	担当課	生涯学習課
施策	④ 芸術文化大会に参加する際に、必要な支援を行います。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	芸術文化大会参加件数				芸術文化大会へ参加した件数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	1.0	5.0	9.0	7.0	【H23】平成23年度より補助要綱を改正し、他の団体等から参加経費の助成がある場合は、その助成額を控除して補助金額を算出することとした。
	基準年度比(%)		400.0	800.0	600.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価						
年度	必要性			推進状況		
	評価	評価理由		評価	評価理由	
23年度	3	全道・全国の芸術文化大会に出場する者に対して参加経費の一部を補助することは、参加を推進する点からも必要である。		5	参加経費を補助することにより、保護者の負担が軽減され、芸術文化大会への参加を推奨することができた。	
24年度	3	同上		5	同上	
25年度	3	同上		5	同上	
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)		

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	件数の増減はあるが、一定の効果はあると考える。	施策の課題	特に課題等はなく、今後も継続して取り組む必要がある。
総合評価(方向性)	芸術文化大会への参加を助成することで、保護者の負担軽減を図り、青少年の芸術文化大会への参加を促しており、引き続き施策の推進を図る必要がある。		

(1)芸術文化活動の促進 施策④ - 1

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	芸術文化大会参加補助	270	774	625	482	【】
合 計		270	774	625	482	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	補助団体	件	1	5	9	7	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	2	3	2	3	2	3	3	2	1
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00			

3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業)  
 2 貢献している(施策を推進する事務事業)  
 1 貢献していない。

3 順調に進んでいる(80~100%)  
 2 ある程度進んでいる(50~79%)  
 1 遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(2)文化活動の場の充実	担当課	文化センター
施策	① 文化センターの施設整備、維持管理に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	文化センター維持管理費		燃料費、光熱水費、委託料など。			
数値2	文化センター改修費		施設整備に係る改修工事など。			
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	千円	61,976	66,998	65,944	71,505	【H25】築29年目の施設であり、今後も定期点検や経年劣化などによる修繕等は欠かせない。 また、燃料費、修繕料、委託料等は今後も増加すると思われる。
		基準年度比(%)	8.1	6.4	15.4	
数値2	千円	38,850	37,564	7,972	19,355	【H25】施設や設備などの老朽化が進むことによる改修工事は、施設管理上必要不可欠である。 照明の不具合により、照明制御盤緊急更新工事を実施した。
		基準年度比(%)	△ 3.3	△ 79.5	△ 50.2	

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	4	計画的な施設整備、維持管理は、施設管理上必要であり、必要な施策である。	5	財政状況によっては、実施予定年度の変更などがあるものの、ほぼ計画どおり進んでいる。
24年度	4	同上	5	同上
25年度	4	同上	5	同上
評価基準	5	重点及び早急に推進することが必要な施策	5	成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%)
	4	更なる推進が必要な施策	4	ある程度進んでいる(50%~80%未満)
	3	現状で推進する施策	3	あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満)
	2	現状においては推進に時間を要する施策	2	着手した程度(20%未満)
	1	制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策	1	未着手(0%)

3 施策の分析及び評価

成果の推移	維持管理は、燃料費、修繕料、役務費、委託料、備品購入費で増加した。施設整備については、ほぼ計画どおりに進められている。	施策の課題	改修事業に係る舞台設備関係では、27年度~30年度まで予定している事業について、毎年実施より、2事業1年で実施を要望。28年を1期工事、29年又は30年を2期間として事業コストの削減と毎年休館日を避ける必要がある。
総合評価(方向性)	芸術文化事業の場の中心である文化センターの維持管理を計画的に行い、施策の推進を図る必要がある。		

(2)文化活動の場の充実 施策① - 1

4 施策の実施に係る事務事業の評価

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	文化センター維持管理経費	61,976	66,998	65,944	71,505	
2	文化センター改修	38,850	37,564	7,972	19,355	今後、耐用年数の経過等により改修費用が増大傾向にある。
合 計		100,826	104,562	73,916	90,860	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	舞台設備等委託料	千円	20,256	20,811	20,745	20,687	
2	設備改修工事	千円	38,850	37,564	7,972	19,355	

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
2	3	3	3	3	3	3	3	2	1
								3	2
								2	1
								1	
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

施策区分	(3)文化財などの保護、活用	担当課	生涯学習課
施策	① 町指定文化財などの保護保存に努めるとともに、その積極的な活用をはかります。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	埋蔵文化財の包蔵地数		町内で登録されている埋蔵文化財の包蔵地の数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	件	102	105	105	105	
	基準年度比(%)		2.9	2.9	2.9	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	町指定の文化財をはじめ、町内に存在する文化財の保存及び活用することは必要である。	5	所在調査、試掘調査などを行い、埋蔵文化財の保存・保護に努めている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	所在調査・試掘調査は毎年行うが、包蔵地の指定までには至っていない。	施策の課題	特に課題等はなく、現施策を推進する。
総合評価(方向性)	音更町の文化財の保存保護に努めるため、引き続き調査等を行っていく必要がある。		





施策区分	(3)文化財などの保護、活用	担当課	生涯学習課
施策	② 収集した資料を整理保存し、展示などを通じて活用します。		

1 施策の成果を表す数値及び推移						
区分	数値の名称				説明	
数値1	郷土資料室の利用者数				郷土資料室を利用した人数	
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	人	460	786	434	596	
		基準年度比(%)	70.9	△ 5.7	29.6	
数値2						
		基準年度比(%)				

2 施策の点検・評価					
年度	必要性			推進状況	
	評価	評価理由		評価	評価理由
23年度	3	歴史的資料及び文献等の収集保存と展示等の充実、活用を図ることは必要である。		5	多くの利用者が訪れており、郷土資料室が広く認知されてきている。また、大規模・小規模問わず、毎年多くの小学校が社会科授業として利用している。
24年度	3	同上		5	同上
25年度	3	同上		5	同上
評価基準		5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策			5 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4 ある程度進んでいる(50%～80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%～50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)

3 施策の分析及び評価			
成果の推移	利用者数は大きく増減あるものの、町内小学4・5年生の社会科学習等で定期的に利用されている。	施策の題	展示品等の劣化による入れ替え・更新や展示スペースの拡張などを考える必要がある。
総合評価(方向性)	郷土資料室の活用により施策の推進が図られている。引き続き習場所として充実を図る必要がある。		

**(3)文化財などの保護、活用**      **施策② - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額			実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	
1	改善センター郷土資料室の設置				
合 計					

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	郷土資料室の利用者数	人	460	786	434	596	

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度	
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		3	2
1	3	3	3	3	3	3	3	2	1
平均	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			

達成度

施策に対する事務事業の達成度	
3	順調に進んでいる(80~100%)
2	ある程度進んでいる(50~79%)
1	遅れがある、未着手(50%未満)

施策区分	(3)文化財などの保護、活用	担当課	生涯学習課
施策	③ 郷土芸能を継承し、後世に伝えていくため、保存団体の育成、支援に努めます。		

1 施策の成果を表す数値及び推移

区分	数値の名称		説明			
数値1	郷土芸能の団体数		郷土芸能保存協議会に属する団体の数			
数値2						
区分	単位	基準(H22)	H23実績	H24実績	H25実績	特記事項
数値1	団体	6	6	6	6	
	基準年度比(%)		0.0	0.0	0.0	
数値2						
	基準年度比(%)					

2 施策の点検・評価

年度	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
23年度	3	町文化財指定等の郷土芸能団体の活動に対して支援することは、郷土芸能保存の観点からも必要である。	5	成人式や老人運動会など町が行う行事への協力の他、学校等地域における芸能披露など様々なボランティア活動を通して、郷土芸能団体の活動が広く知られるようになっている。
24年度	3	同上	5	同上
25年度	3	同上	5	同上
評価基準	5 重点及び早急に推進することが必要な施策 4 更なる推進が必要な施策 3 現状で推進する施策 2 現状においては推進に時間を要する施策 1 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4 ある程度進んでいる(50%~80%未満) 3 あまり進んでいない・遅れがある(20%~50%未満) 2 着手した程度(20%未満) 1 未着手(0%)	

3 施策の分析及び評価

成果の推移	各団体における継承活動や音更町の各種生涯学習事業への参加・協力が継続して行われている。	施策の課題	児童・生徒などの若年層が多く参加・活動されるよう、各団体に対して呼びかける必要がある。
総合評価 (方向性)	郷土芸能団体の支援を通して施策の推進が図られている。引き続き音更町の伝統文化が継承されるよう支援を実施する必要がある。		

**(3)文化財などの保護、活用**      **施策③ - 1**

**4 施策の実施に係る事務事業の評価**

(1)実績の推移等

事業番号	事務事業名	事業費実績額				実施における特記事項 (実施内容等の見直しなどの状況、実施結果及びコストにおける課題など)
		22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	郷土芸能保存協議会交付金	450	450	450	450	【】
合 計		450	450	450	450	

(2)代表的な成果の推移等

事業番号	事務事業名	単位	事業費実績額				成果における特記事項 (事務事業の実施以外で、数値に影響があった内容)
			22年度 (参考)	23年度	24年度	25年度	
1	郷土芸能団体数	団体	6	6	6	6	【】

(3)事務事業の評価

事業番号	23年度		24年度		25年度		貢献度	施策に対する事務事業の貢献度
	貢献度	達成度	貢献度	達成度	貢献度	達成度		
1	2	3	2	3	2	3		3 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2 貢献している(施策を推進する事務事業) 1 貢献していない。
平均	2.00	3.00	2.00	3.00	2.00	3.00		達成度 3 順調に進んでいる(80~100%) 2 ある程度進んでいる(50~79%) 1 遅れがある、未着手(50%未満)